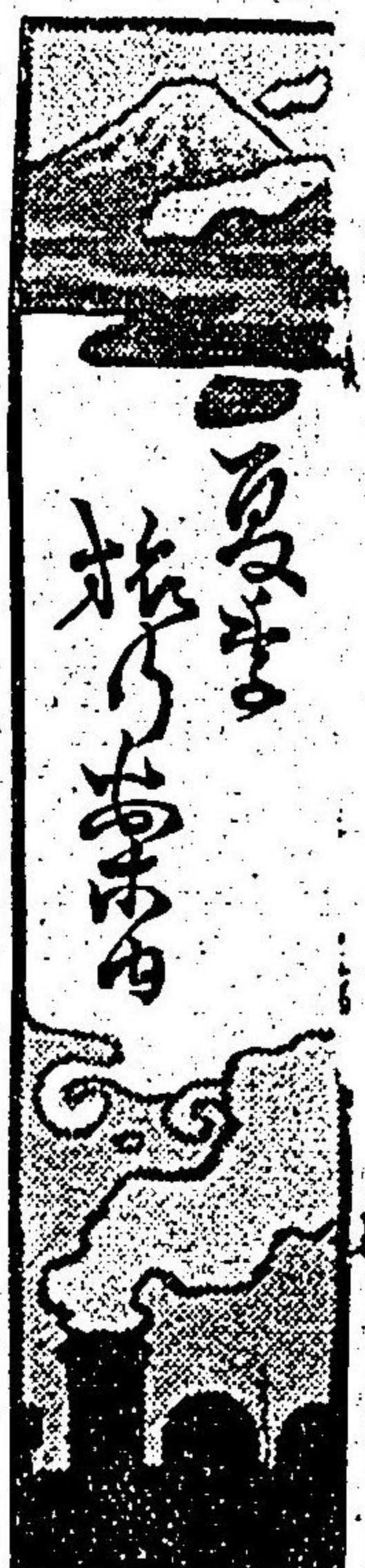




旅の道、水、岩間に、
 走る梢とぶ野山、
 見るくうしろに、
 飛ぶ鳥咲く花、
 過ぎてぞ行く、
 浮ぶ鷗たつ千鳥、
 見よく岩間に、



旅の道、水、岩間に、

(東部)

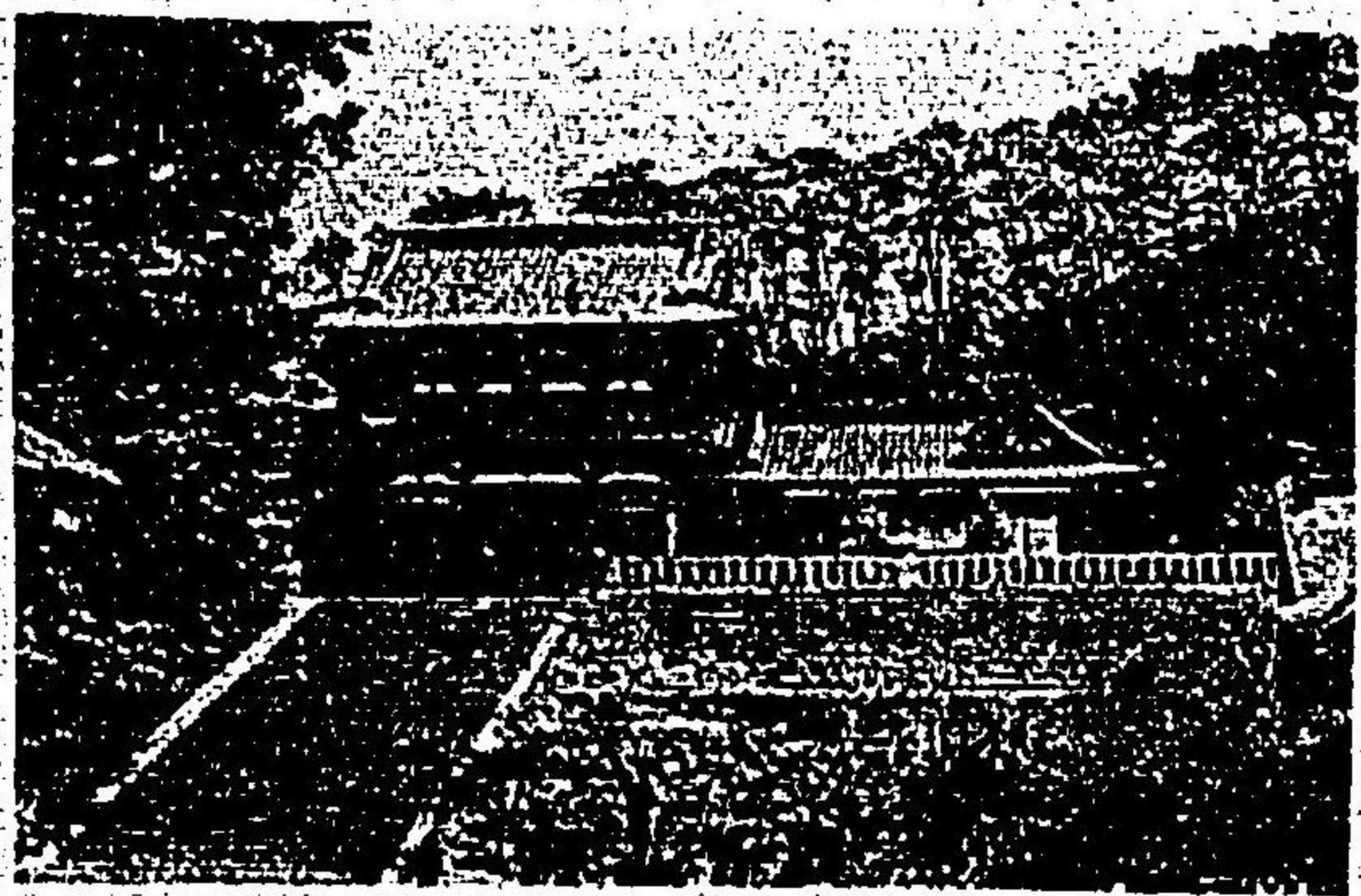


神社 鴨ヶ岡八幡宮は宇雪ノ下にあり、隣より約六町、應神天皇神功皇后を

祀りたる結構壯麗を極めた社殿である。静
が想夫戀の一曲に阪東武者を泣かした
のは此處で本殿石階の下に天を摩して居
る銀杏の大樹は今尚ほ寛朝最後の哀を語
つて居る。鎌倉宮は宇二階堂にあり、隣より
十八町、護良親王の靈を祀る。輪奐敢て壯麗
なられど高潔靜肅にして崇敬の意自ら湧
くを覺ゆる社後の暗澹たる土牢、親王千載
の恨を殘して人をして暗涙を催さしむる。
宮はしらふとしき立て、

万代にいまぞさかえむ

かまくらの里 實 朝



鴨ヶ岡八幡宮



長谷ノ大佛

佛閣 建長寺、圓覺寺、喜福寺、淨智寺、淨妙寺、所謂鎌倉五山とは即ちこれ、中に
も建長寺、圓覺寺は境内廣く閑靜幽雅譽を避くるに尤恰當な處である。長
谷寺の十一面觀世音は大和國長谷のそれと一木一對にして、身の長三丈

餘佛工春日の作として有名なるも
のである。大佛は長谷觀世音の北に
あり、奈良の大佛と共に我邦著名の
銅像丈三丈五尺、膝の廻り五間半、胎
内に觀世音六體、阿彌陀三尊を安置
してある。拈華微笑の容顏脈々とし
て活くるが如くまことに尊く拜ま
れる。英勝寺、光明寺、極樂寺、覺圓寺、安
國寺は日蓮上人の立正安國論を草
したる處、高弟日朗の筆になれる。相

紙金泥の安園論一卷、今尙ほ寺寶として傳へられて居る。

鶯や鎌倉道は寺多き

まけり

海濱 坂の下より東の方材木座邊迄の海岸を由井ヶ濱といひ、坂の下より西方稻村ヶ崎より腰越邊までの砂汀を七里ヶ濱といつて居る、この邊波濤靜にして白砂遠く連り、遙に富士の秀嶺を仰ぎ、近く江ノ島と相對し、風光盡も及ばずである、海水浴場は由井ヶ濱、七里ヶ濱に設あり、蓆簀張の小屋を掛けて水風呂を設け、鹹水を洗ひ流す便も備へてある。

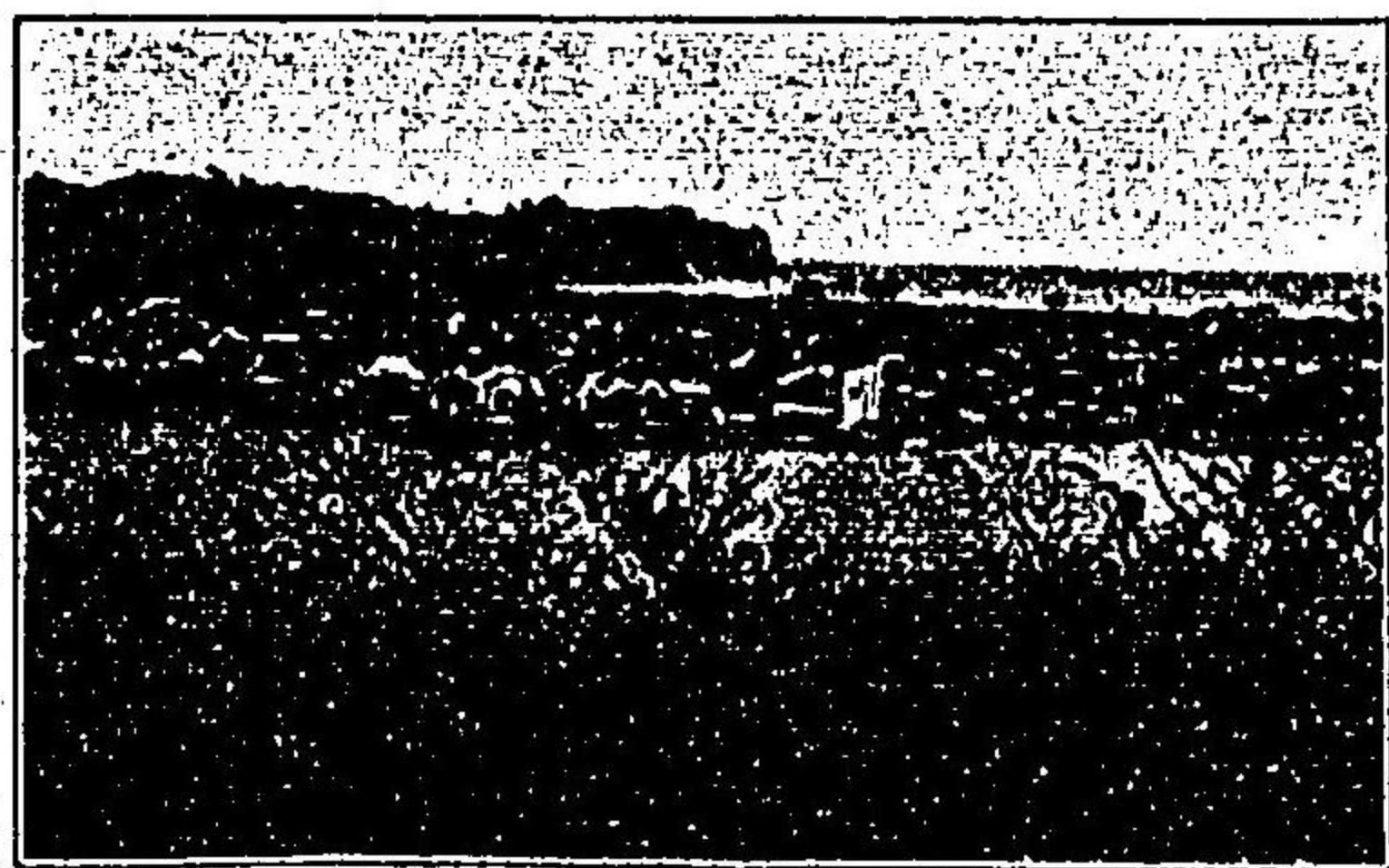
逗子 驛 新橋より三三哩

逗子海水浴場 驛より約十二町、新宿の濱に設けてある、左には鳴鶴崎を控へ、右には小坪ノ岬が突出して弓形の一小灣をなし、砂白く水清く波平かに油を湛へてゐるやうで、海水浴場として尤安全な處である、富嶽の秀嶺はこゝにも姿を顯はすことを惜まない、葉山は約一里餘を隔て、居る風光

秀麗な地で宮内省の御用邸があるのは、あまねく人の知る處である。

金澤八景 往路を田浦驛に取り歸路逗子に出

るとも、逗子から下りて田浦へ出るとも思ひ思ひにまかす、洲崎ノ晴嵐、瀬戸ノ秋月、小泉ノ夜雨、乙船ノ歸帆、稱明寺ノ晚鐘、平瀧ノ落雁、野島ノ夕照、内川ノ暮雪、これを八景と言ふので、昔巨勢の金岡が此風致を描かむと顔に丹青を凝したけれど、遂に精妙を極むる能はざるを嘆じ、筆を捨て、立去つたといふ筆捨山能見堂に登ると、方一里許の間に悉く此風光を望見することが出来る、灣の中央に突出して居る小山を九覽亭といふのは、八景の外能見堂の景をも見ることが出来るからだといふことである。



洲崎ノ晴嵐

横須賀驛 新橋より三七哩六

安針塚 驛より十九町餘、字十三峠の一端にあり、安針とは英人ウヰリヤム、アダムスの別名で、彼は慶長年間日本に漂泊し、徳川氏に仕へて火術の師となり、功により逸見村に若干石を賜うたのであるが、此里の風光を愛して遺言して此處に葬らしめたといふ事である、尙ほ安針の菩提所たる淨土寺には同夫妻の靈牌及守本尊たりし観音の像など藏せられてあるが、夏島、烏帽子岩等を脚下に望み、風光清絶の處であるから、一遊の價は十分にある。

○東海道線

藤澤驛 新橋より三〇哩四



江ノ島

江ノ島 驛より約一里、鎌倉よりは七里ヶ濱を経て行くのである、江島縁起に曰く「奇岩怪石の磊砢たる、異島廻穴の幽深なる、百尺の山天に挿み、三台の島波に戴く、白雲の破るところ、洞門開けて翠屏あらはれ、黒水の澄む時、潭底透て素練漉かなり」と、まことや辨天窟の奇、兒ヶ淵の險、波濤澎湃として、巖を嘯む處、老樹蒼鬱として、風を起す處、風景絶佳など、今更らしく言ふのは、野暮の極である。

江の島や、蒸風魚の新らしき、子規進行寺 驛より八町、時宗の本山である、後山富士見亭は、山海の眺望無比、畏くも

聖上鸞輿を駐めて風光を愛でさせられたこともある、側の小栗堂には判官の像及照手姫愛甌の古鏡等あり、鶴沼片瀬腰越には海水浴場の設けあり、十二三町乃至二十五六町を隔つるのみである。

茅ヶ崎驛 新橋より三五哩

柳島 驛より十四町相摸川の尻にある漁村である、南相摸灘に瀕し、西富士箱根、雨降の諸山を望み、風光明媚の勝地である、海水浴場は驛より八町いはゆる芽ヶ崎八景は此處より眺を恣にするが出来る。

平塚驛 新橋より三八哩四

大山 驛より頂上まで四里半、相摸第一の大山であるから此名があるので、雨降山の又の名である、山上に農家の守護神阿夫利神社あり、七月二十一日より八月十五日までの夏祭の折は、参拜者萬を以て數へらる、山中空

氣清涼夏の暑さを知らない幽境である。

大磯驛 新橋より四〇哩八

洵綾ノ磯 とは大磯海岸一帯をさして言ふのである、西行が秋色の哀に感じた鴨立澤は町の西端にある、哀れさは秋なられども知られけり鴨立澤の昔たづねて飛鳥井雅章痴ならねど、此處に来ては誰しも此感じが起るであらう。

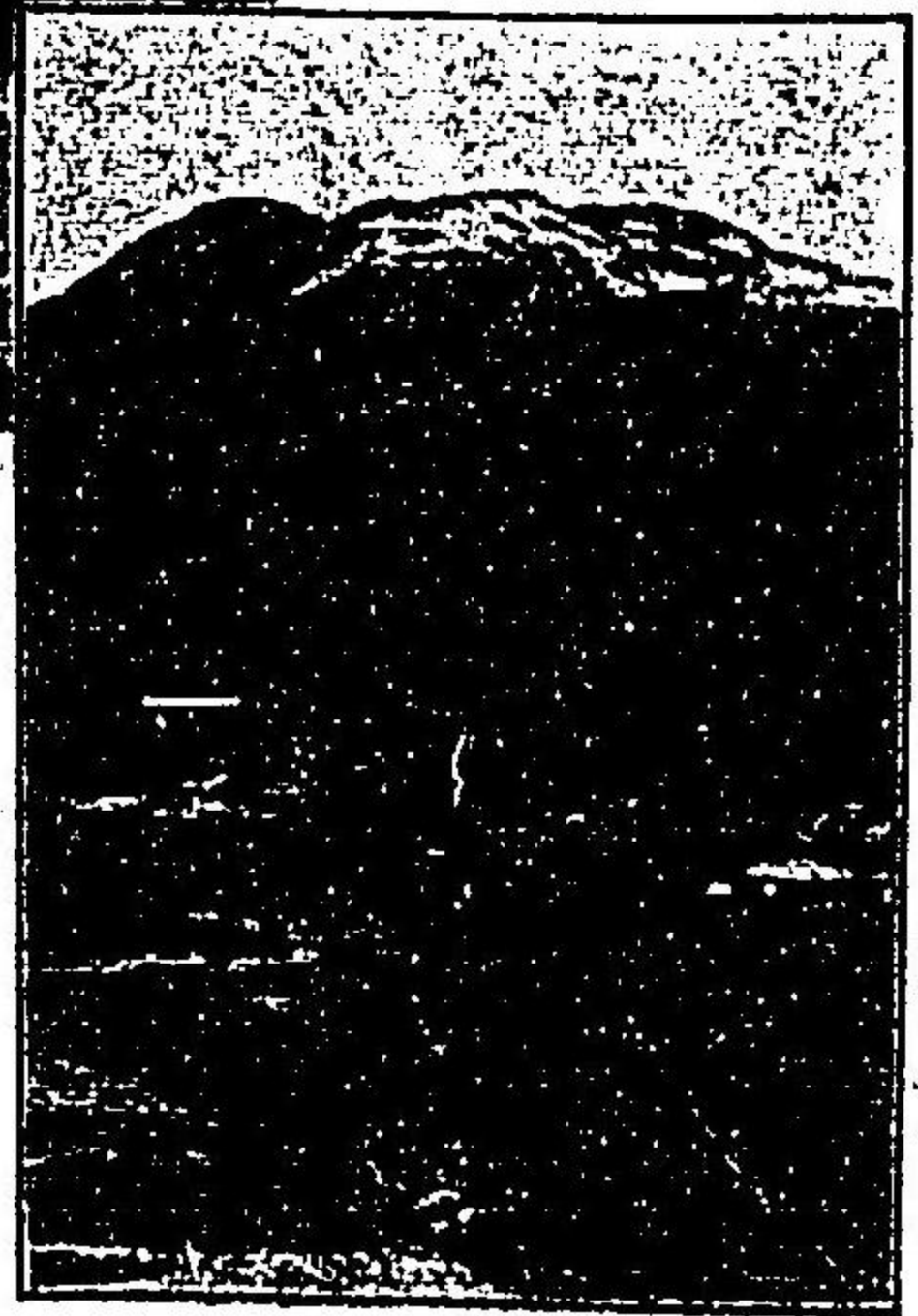
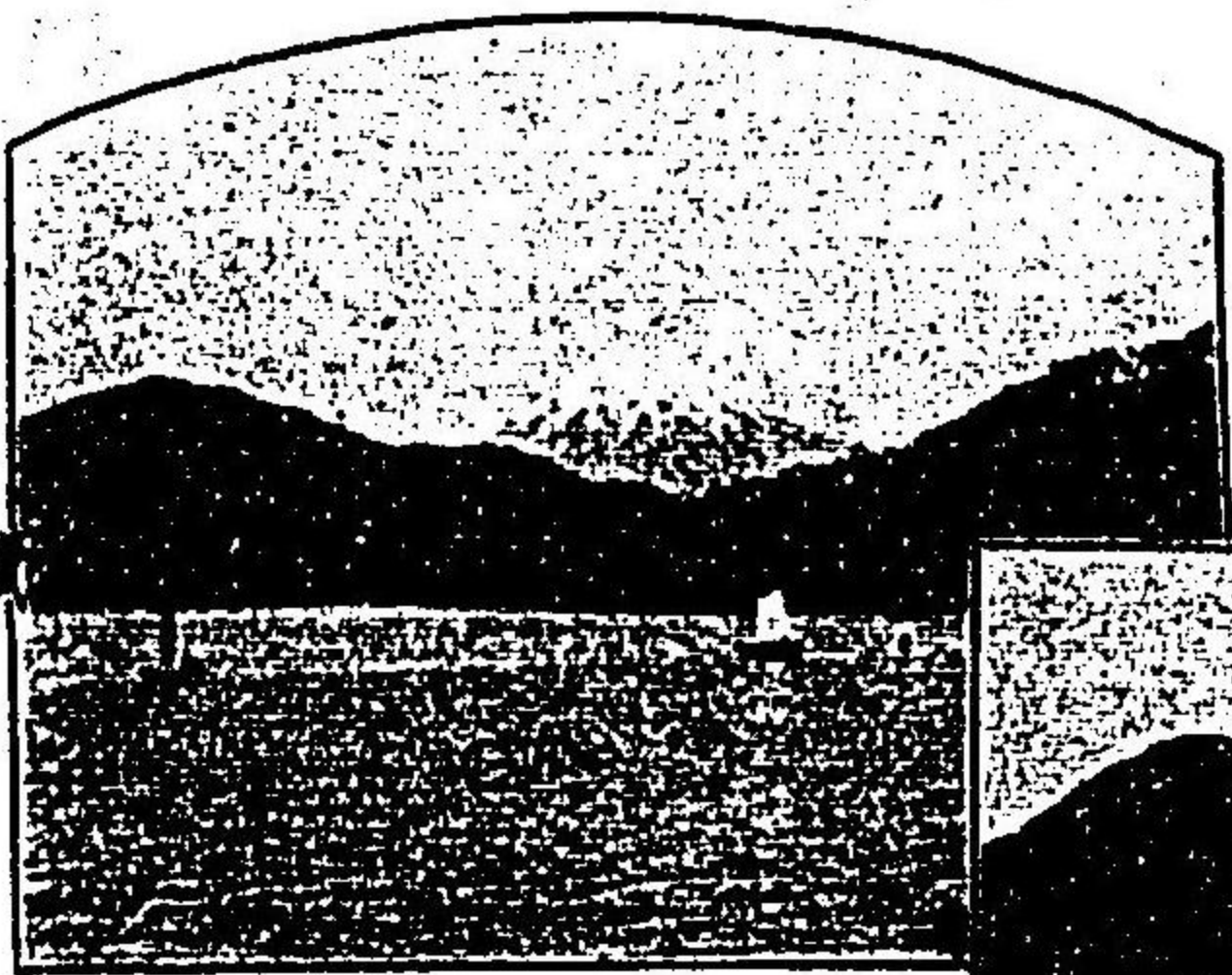
鳴立ちてなきものを何に呼子鳥 三千風

照ヶ崎海水浴場 驛より四町、長汀東西に連り、近く左方に江ノ島を水烟の間に眺め、遠く右方に宮嶽を雲霞の間に望み、展望爽快、特に潮勢常に緩和、老幼婦女も些の危険なきのみならず、救難船の設さへあり、湘南第一の海水浴場と言はれて居る。

國府津驛

新橋より四七哩

箱根温泉 常驛に下車し小田原電車に
乗りて約三里を行くと箱根七湯中第
一に湧出したといふ名を
負うて居る湯本に着く夫
より塔の澤を経て一里半
許徒歩に健脚を誇るか山
窟籠に昔の面影を忍ぶか
してゆくと浴場の結構を
以て四邊の風色を以て七
湯中第一位と稱せられて
居る宮ノ下温泉に達する



湖ノ蘆

のである、一夜の
夢を此處に結ん
だならば翌日朝
涼の中に一里を
歩して蘆ノ湖の
絶勝を賞して元

下ノ宮

箱根宿に一泊し湖水に棹して佐野驛に出るか舊街道を履んで三島驛に
出るかするがよい、

夏山を上り下りの七湯かな

子規

伊豆山湯河原熱海伊東の各温泉場に遊ぶ人は此驛に下りて人車鐵道に
據るがよい、

山北驛 新橋より五六哩九

瀧水ノ瀧 驛より十五町三條に分れて落つ潭底水淺くして水浴に適して
居る晝夜溪流の間に河鹿の聲ありうたい心耳を澄ましむるのである文
覺が行を修したるは那智にあらず此瀧だといふ傳へもある、

御殿場驛 新橋より六九哩一

富士登山 は夏期旅行中の一大壯遊一萬二千八百尺の頂を究めて自然の



宮 士 遠 望

一四
 秘を探る、天下之にます快事はあるまい、
 當驛よりの登り口二、一を御殿場口と言
 ひ、頂上まで約六里、太郎坊を経て二合五
 勺目迄四里の間は、馬背に跨りて追分の
 節面白う聞く樂もある、此間を裾野とい
 つて居る、一を須走口と言ひ、頂上まで約
 六里半、須走まで三里半は馬車鐵道に據
 り、それより馬返迄一里の間、馬子の唄尻
 緩かなる節を聞くことが出来る、尙ほ鈴
 川驛に下車し、大宮より登るを大宮口と
 言ひ、頂上まで十里餘、大宮まで三里十町
 は馬車鐵道の便がある、三道いづれより
 しても、歸路吉田口に下りて大月驛に出

で、中央東線によりて歸る便宜もあるのである、

雲霧のまばし百景を盡しけり

はせを

佐野の驛

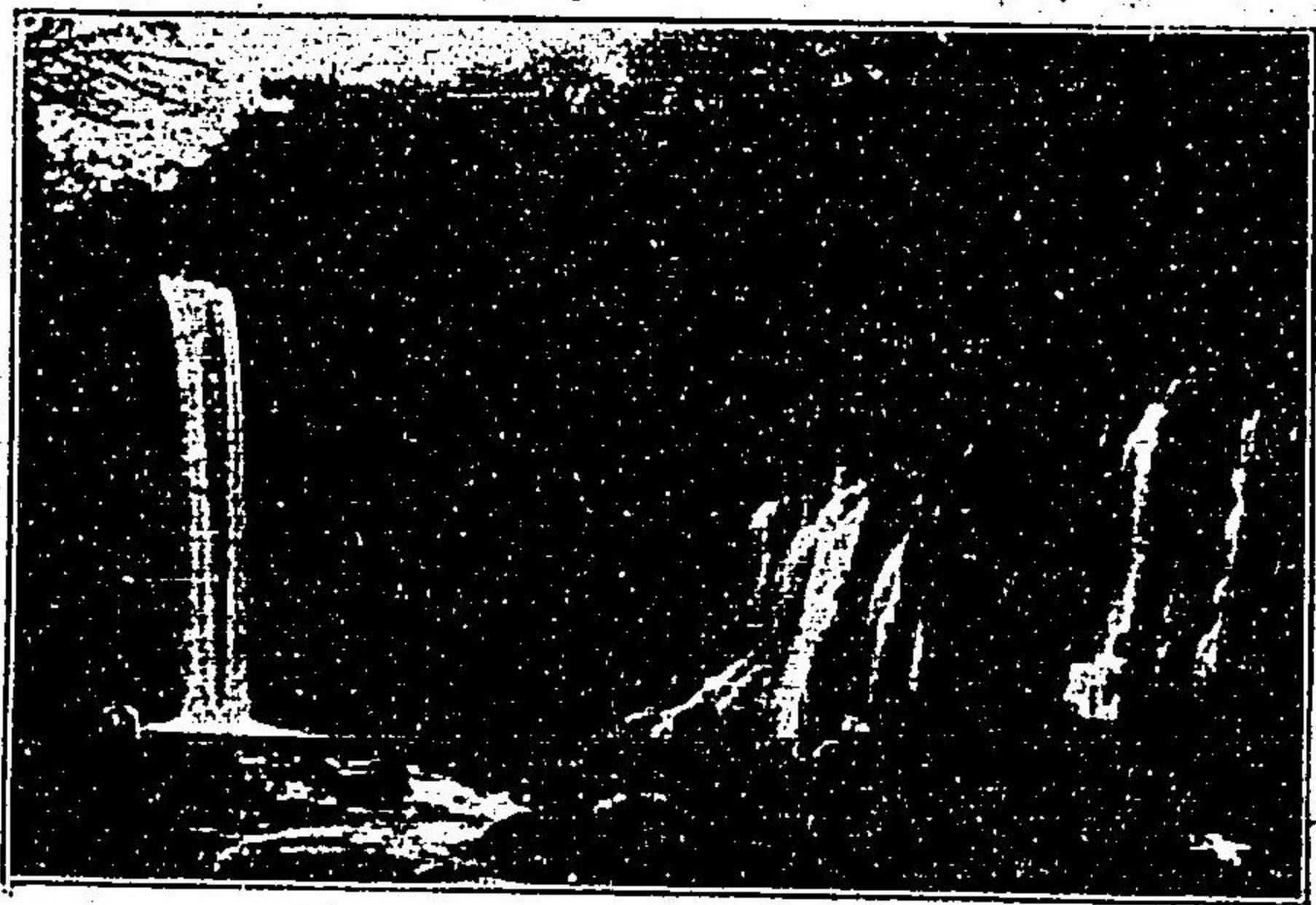
新橋より七八哩五

佐野温泉 驛より十二町、瀑は絶壁より五
 條に分れて落下するから五龍の瀧と言
 つて居る、園内幽靜、深緑の下自ら涼風湧
 き三伏の苦熱を覚えない處である、附近
 景ヶ島の勝あり、

三島驛

新橋より八一哩五

當驛は豆相線の接續線であるから古奈



佐野の瀧

修善寺、土肥湯ヶ島等の温泉に向ふ人はこゝで乗換へる必要がある、

富士見瀑 驛より二町、水色藍の如く潭淵壺に似て居るので、藍壺ノ瀧とも

言つて居る、奇巖怪石に激して碧淵珠を飛すの状實に壯快である、

三島神社 驛より半里、往古朝廷の崇敬厚かりし有名なる官幣大社である、

境内頗る廣く老杉森々神さびて厚く、社前の大池、尺大の鯉魚の躍るも目

ざましい、八月十六日は大祭で山車、踊屋臺を練り廻して雑踏を極むる、遊

晏旅行の一日を此處に熱殺されるも、嫌かばつて面白いではないか、

修善寺 豆相線大仁驛の南十餘町、狩野川の左岸、達磨山の東麓にあり、温泉

は數箇所湧出し、古來有名なる靈泉である、頼家、範頼の哀なる最期を遂

げたのは此處で、墓はほとり近くにある、

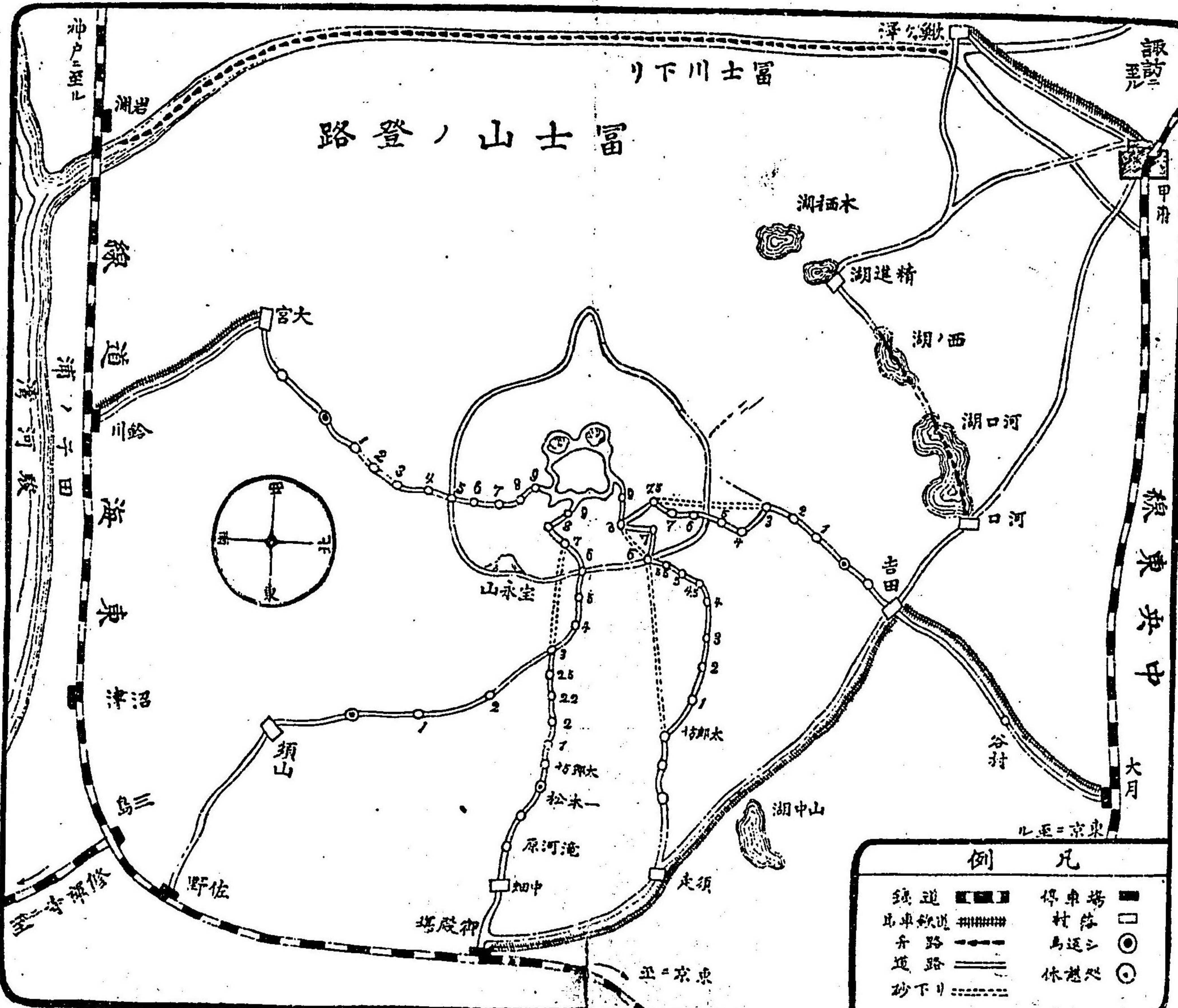
沼津驛 新橋より八四哩四

四海水浴場

靜浦、千本松原、我入道、牛臥、いづれも海水浴場の設がある、千本

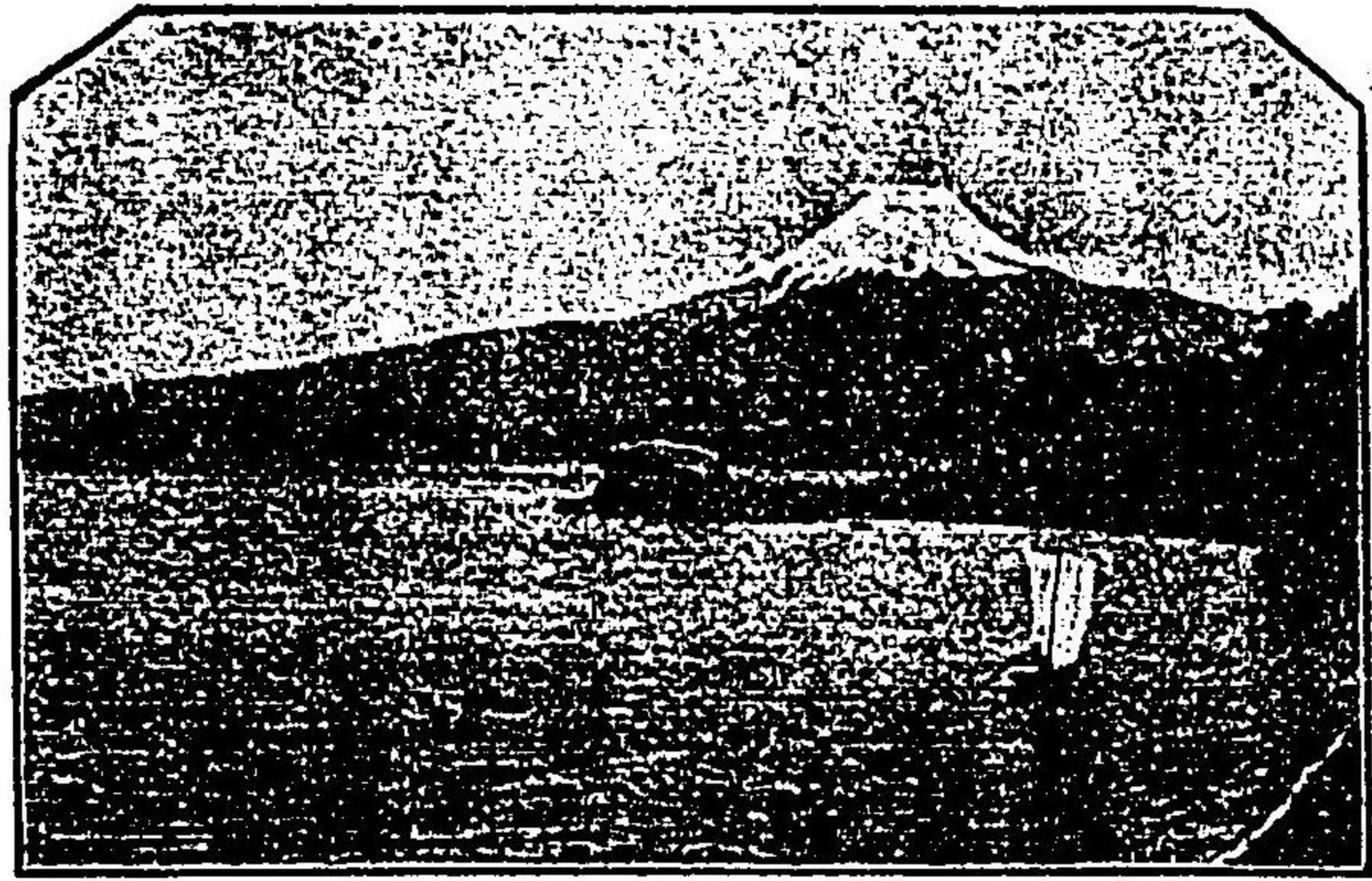
富士山ノ登山路

富士川下リ



例凡

鐵道	■	停車場	■
馬車路		村落	□
舟路	- - -	馬道	○
道路	==	休憩所	◎
砂下り	:-:-:-		



松原は驛より十八町、白砂青松遠く連り、千本松の名其實にそむかず、遙に

三保ノ松原と相對して駿河灣を成す處、波
靜に鏡の如しである、我入道は驛より二十
町岩頭不動岩の奇あり、牛臥は約三十町我
入道より桃郷御用邸に至る海濱に兀立す
る高丘にして、遠く望めば恰も犁牛りぎうの臥し
たるに似たりといふので牛臥山と稱して
居る、富士箱根の峻嶺を雙眸すゝめの中に收め、大
瀬崎、三保ノ松原を望む風光形容するに言
葉なしである、靜浦は牛臥山の東南岸で、波
に漂ふ芙蓉ふゆふ八朶はつたの秀峯を松の木の間まに拾
ふ風光、他に類なきはあまれく世に知られ
て居る、

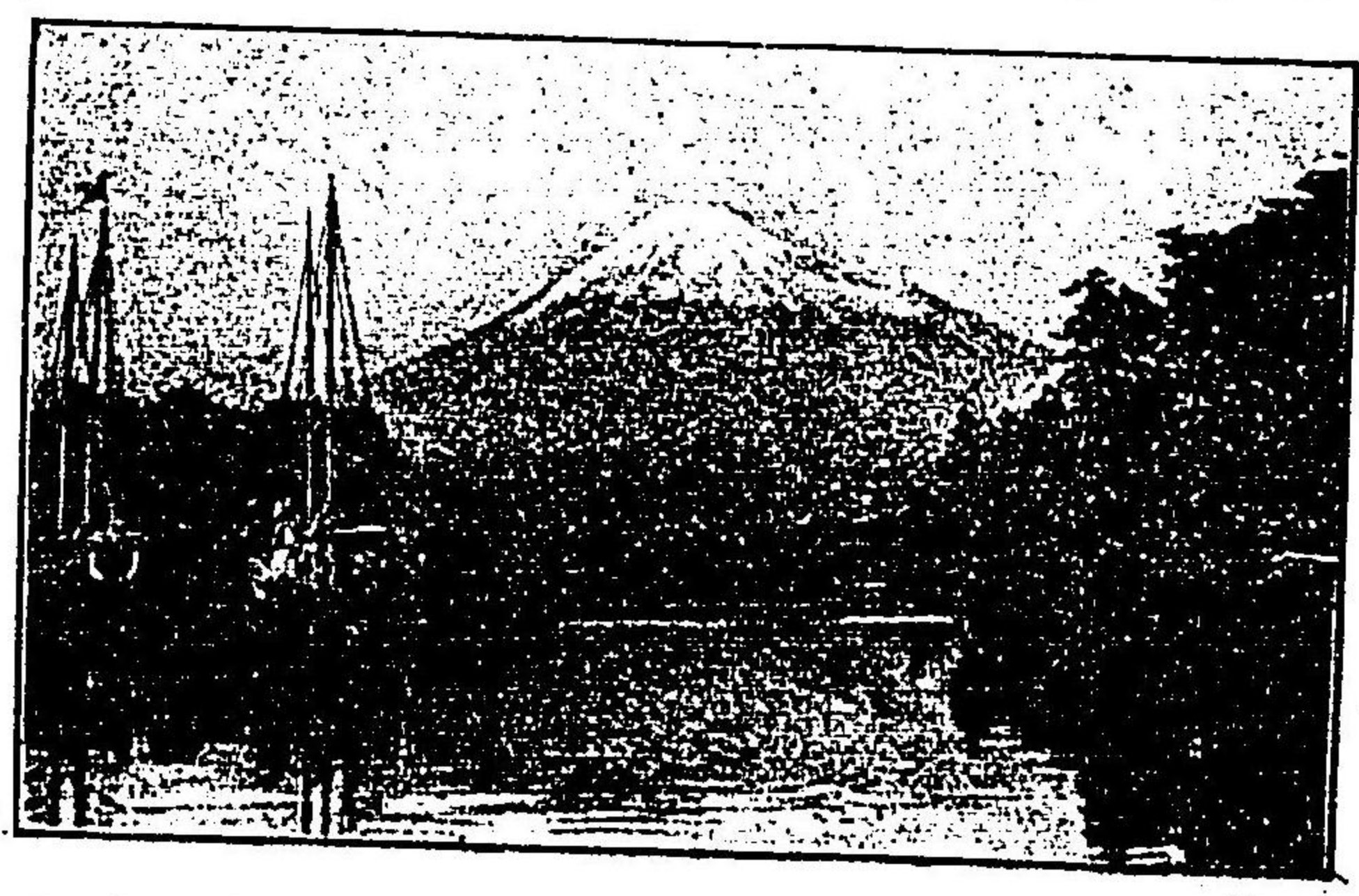
坊やは善い子ぢや寐んねしな此兒の可愛さ限りない山には木の藪草の藪、ぬまづに居れば千本松千本松原小松原まつ葉よりもなほ可愛い。

鈴川驛

新橋より九三哩八

田子ノ浦 驛より四町田子の浦ゆうち出て見ればましろにぞ不二の高根に雪は降りけるの赤人の歌を以て形勝天下に隠れなき處である後に不二あり前に三保あり山光水色相俟つて人をして目を拭はしむる好景である。

目にかゝる時やことさら五月不二はせを



田子ノ浦

興津驛 新橋より一〇八哩一

興津 東京と名古屋との中央で、東海道より甲州身延山に参詣する順路である。古此處に清見ヶ關を置かれたことは史上に見えて居るけれど、今は其跡だに訪ぬる由がない。古歌に名高い清見潟、庵崎許奴美は此邊の海岸を言ふので、海水浴場は僅に六町を離れてゐる。薩埵峠の一端には山ノ神とて風景絶佳なる處あり、登臨して暫し山水の主となるべしである。

山の神さつた峠の風景は 三くだり半に書きもつくさじ

蜀山人

清見寺 驛より八町、駿河三ヶ寺の一として有名なる寺である。殊に風光清絶、清見潟、田子ノ浦、三保ノ松原を眼下に見渡し、觀月の美、須磨明石に譲らない處である。畏くも 聖上の行在所に供せられたこともあり、富士御觀望の爲め、皇后陛下の行啓を忝うしたこともある。

江尻驛 新橋より一一哩三

三保ノ松原 驛より一里十町清水港から渡船の便がある、一條の青松まゆかみの如く海中に突出して長さ一里餘潮風四季を分たす松に颯々の琴を奏で、白沙一路露の降るのも心地がよい、羽衣ノ松は碑に「昔天女降りて羽衣を松ヶ枝にかけしと傳ふれど其松は已に枯れ果てたり」とあり、今あるは其後植ゑつけたるものださうなが枝は古りて千古の遺風を傳へ根は蟠風まんふうして龍もこれを居眠の枕にやせむ、富士は湯上りの薄化粧の姿を見せて、腰より下の足高や裾はほかしの浪模様、天女の舞樂を目のあたりに見るやうな心地がする。

お富士さん霞のころもぬがしやんせ

雪のはだへが見たうござんす

蜀山人

龍華寺

後に山を貢ひ前に有波ノ海を望み、三保ノ松原を脚下に横へ眺望

優美天下三大絶景の第一位に指折られて居る龍華寺十二勝の撰もある、三保の水郷を去つて歩を此山郭に移さむか、風光一變趣味亦一層の深きを感ずるであらう、日本一の蘇鐵のあるのも此寺だ、傍に鐵舟寺あり珍奇の寺寶に富む、就て一覽を請ふもよからう。

江尻海水浴場 驛より約二町、清水海水浴場はそれに隣りて居る、潮水清く遠淺であるから危険の虞は少しもない、景色の好いのは眺かすとものことである。

静岡岡驛 新橋より一一八哩

風櫃山 驛より十六町、青葉ヶ岡ともいふので納涼に適して居ることが知れる、南端に社殿の壯麗を以て誇る淺間神社がある、安倍川の清流を右に駿河灣上に往き交ふ白帆の影を送迎する眺がよい、久能山 驛より二里半餘、海拔八百九十尺、石階千三十六級あり、四面斷崖絶

壁にして、有波の海原は脚下に洋々たり、山頂の東照宮は結構壯殿を極めて居る、尙ほ静岡附近には木枯ノ杜、葛ノ細道、吐月峯、麻機ノ沼など探涼に恰好なる處あり、由井正雪、今川義元ノ墓、大石良雄と約して義央を打ち漏さば其志を襲がむと約せしかしくノ墓などもある、

富士の雪とけて硯のすみごろも

かしくは筆のをはりなりけり

可 祝

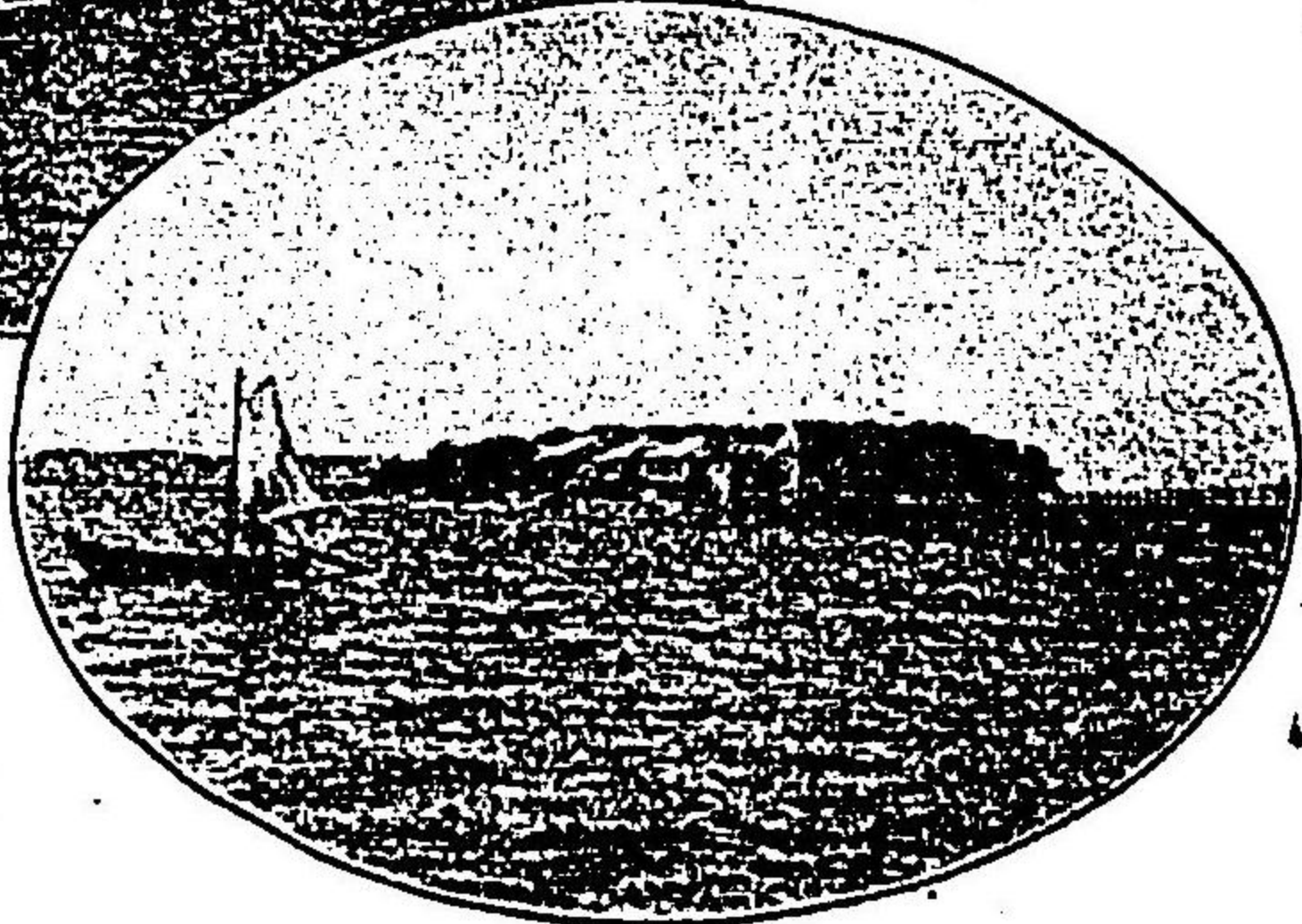
濱松 驛 新橋より一六五哩七

楓々ノ松 驛より一里、由來濱松の邊は名に負へる如く名松多く、音羽ノ松、白山ノ松、首實檢ノ松、胞衣ノ松、琴絃ノ松、鎧絃ノ松、雙羅ノ松、五社ノ松、數ふるに遠なき有様である、中にもざらんざの松は、足利義教宮嶽遊覽の時、此松下に宴を張り、濱松の音はざらんざ云々と謡はれたから名付けたので、其名最著はれて居る、

辨

天

島



舞坂 驛 新橋より一七二哩二

濱名湖 南は渺茫たる太平洋に

面し、東北西の三面は連峯起伏して屏障を樹てたやうである、宮嶽は斯く遠げなれたる處にも其姿を惜まず、月明かなる夕には、湖面を鏡にほんのりと薄化粧の影を見せることもある、

井伊谷神社、山寺、方廣寺など形勝の地この湖邊に多いが、珠に湖中の一小島たる辨天島は誠に夏しら波の仙境で、曉の霧夕の月松林の散策興盡くるの時を知らない、而も水清く

砂白うして遠淺になつてゐるから、婦女子の海水浴場としても恰好な處である。湖上船を浮べ、網を投げ、輪を垂れて、獲物に舌鼓を打つのもある。當廳に於ては夏季中、茲に辨天島假停車場を設けて、東西より來遊する人の便を計りて居る。

あの月や昔濱名の橋の月

鬼 貫

○中央東線

立川驛及日野驛 飯田町より二十哩九、及二十三哩

多摩川鮎漁 六玉川の一で鮎の名所である。都座を避けて一日を竿に親しみ、歸來獲物に一酌を傾くるもまた夏の樂の一つである。當廳に於ては已に割引往復券を發賣して遊漁者の便を計つて居る。

かとり火の影にぞしるき玉川の

鮎ふす瀬にはひかり添ひつゝ

夫 木

御嶽 立川より青梅線に乗換へ、日向和田驛に下車して登山するのである。山中陰森として奇石怪巖夥し、鸚鵡石は甲籠山との間にあり、深谿に枕して峙つこと數百仞、呼べば應ふることも木靈の如し、寶の瀧は一流七級、長さ三十丈、七瀧と言はれて居る。

猿 橋 驛 飯田町より五〇哩六

猿橋 周防の錦帯橋、木曾の棧橋と共に、日本の三奇橋と唱へられて居る。猿橋は猿橋町を中斷して流るゝ桂川の絶壁に架つて居るので、驛より九町の近きにある。長十七間の棧橋で、橋下に流るゝ碧水の岩を衝き石を嘯むの光景、人をして自ら心膽を寒うせしむる。谷深きそばの巖のさるはしは

ひともこすゑを渡るとぞ見る

大月驛 飯田町より五二哩二

富士登山 東海道を表面とすると中央東線は其裏面である。この方面より登山する人は大月驛で下車し、富士馬車鐵道に乗りて吉田口に行くのが便利である。此處から絶頂までは十里位もあるから、御殿場口などに比べると少しは道程が遠いが、其かはり峻険な處が少ない。

駿河とも甲斐ともいはいはじ天雲の

うへにこそあれ富士の高嶺は 菅麻呂

谷村町 大月驛から約二里十五町、富士登山吉田口に向ふ途中であるから中食や宿泊をするには便利である。富士馬車鐵道は此處を基點として北は大月停車場、南は吉田町に通じて居る。都留馬車鐵道や御殿場馬車鐵道にも此處で接続し、須走を経て東海道線御殿場驛に達して居る。で登山者は御殿場驛から登りて歸りに吉田口を下りて大月から汽車に乗つても、

又は吉田口から登り、須走口を下りて御殿場驛から汽車に乗つても、共に鐵道の便があるから都合が好い。

笹子驛 飯田町より五九哩八

笹子峠 は甲州街道第一の險路として古來有名なる處である。驛を下りて舊道を登ること一里餘、絶頂を極めて四方を眺望するもよからう、中腹に矢立ノ杉といふのがある。周回四丈餘、頼朝富士巻狩の時弓箭を射込んだといふので此名がある。此笹子峠を横貫してなる隧道は長さ一萬五千三百六十四呎、七ヶ年の星霜を経て工を竣へたもので、本邦鐵道創設以來第一の難工事として、東洋第一の長隧道として、世に知られて居るから特に注目すべきものである。

ものゝ手向の征箭もあとふりて 神さびたてる杉のひともと

日下部驛 飯田町より七二哩九

差出ノ磯 驛より約十五町笛吹川の清流に臨んで居る丘阜で、老松鬱蒼として風光蒼海に類する岬角のやうであるから磯といふ名を貰うてゐる。盛の名所といふので納涼を兼ねて遊びに来る人が多い。鹽の山さしでの磯に住む千鳥

君が御代をば八千代とぞなく

甲府驛 飯田町より八〇哩三

御嶽登山 甲府驛から御嶽金櫻神社まで約三里二十町、社は雄略の御宇の創建に係り境内幽静なり、途中昇仙橋上に佇んで右に覺圓峯の崔嵬を仰ぎ、左に雨遮巖の奇觀を望めば、身は已に仙境に立つの趣がある。瀑布あり、清流あり、奇石あり、怪巖あり、老木天を突いて清冷の氣肌に迫り、坐に夏衣

の薄きを感じしむる、社前名物の蕎麥あり、これに英氣を養ひ、緊裯一番更に五里の途を攀ぢて金峯山頂の本宮に賽し、甲信の連山を脚下に賞すべしである。

富士川下り また逸すべからざる夏季の壯遊である。此線の旅行者はまづ諏訪湖に遊び、次に御嶽山に登りて、それから此川を下りて東海道線に出るがよい、川下りをするには甲府から歐澤に行き、茲に一泊して翌朝の一番船(午前七時頃)若くは二番船(午前八時頃)に乗るのである。小船一度岸を離れて海拔七六八尺の高河流に泛べば、急湍船を蹴弄して走ること矢の如く、舟子一條の竹竿を操り巧に巖



昇仙橋

石の間を縫ふ、舟首曲折して風光見るく、轉換し、思はず手を拍つて快哉を呼ばしむること幾度か數へ切れぬ、歌澤より岩淵驛まで流程十八里、船は僅に八時間を要するのみ、誠に愉快なる船路である、
 身延山久遠寺 富士川西岸に在り、歌澤より流程六里、小舟にて波木井村まで行き、徒歩二十七町身は已に身延山に立つて居る、堂塔伽藍の結構は言はずもがな、千巖秀を競ひ、萬壑奇を恣にし、法鼓山に應へ、讀經水に響き、耳目に觸るゝもの皆一切成佛安樂國の觀がある、本堂より登ること一里半、絶頂奥ノ院に至れば、駿遠豆腐總の諸山歴々として眼界に連なり、曠茫たる眺また比すべきものがない、

日野春驛 飯田町より九六哩一

駒ヶ嶽登山 驛より絶頂まで五里、登路は富士よりも峻しく、海拔九千九百尺、昔は山神の崇りがあるとして登るものもなかつたさうだが、今は山頂に

駒ヶ嶽神社あり、天邊の涼風を吸はむが爲め、參詣を兼ねて登る人が多い、

小淵澤驛 飯田町より一〇四哩一

八ヶ嶽 驛より一里十町、名詮自稱峯頭八箇に岐れ、奇峯怪巖また人を招くに足るのである、海拔九千百十六尺、山中、明治温泉あり、登山の汗を此處に洗ひ流すも面白い事であらう、

上諏訪驛 飯田町より一二一哩七

上諏訪町 諏訪湖畔の一都會である、旅館、料理店皆屋内に鑛泉を引き、清らかなる浴室の設あり、實に旅中の樂土である、
 諏訪湖 驛の前、周圍五里に近く、海拔二千六百四十尺の高地にある名高い湖である、富士見分水嶺及八ヶ嶽の裾野、乃至鷲ヶ峯、鉢伏山などより出づる溪流、皆此湖に注ぎ、溢れて西方山嶽の間を出で、茲に東海の大川天龍

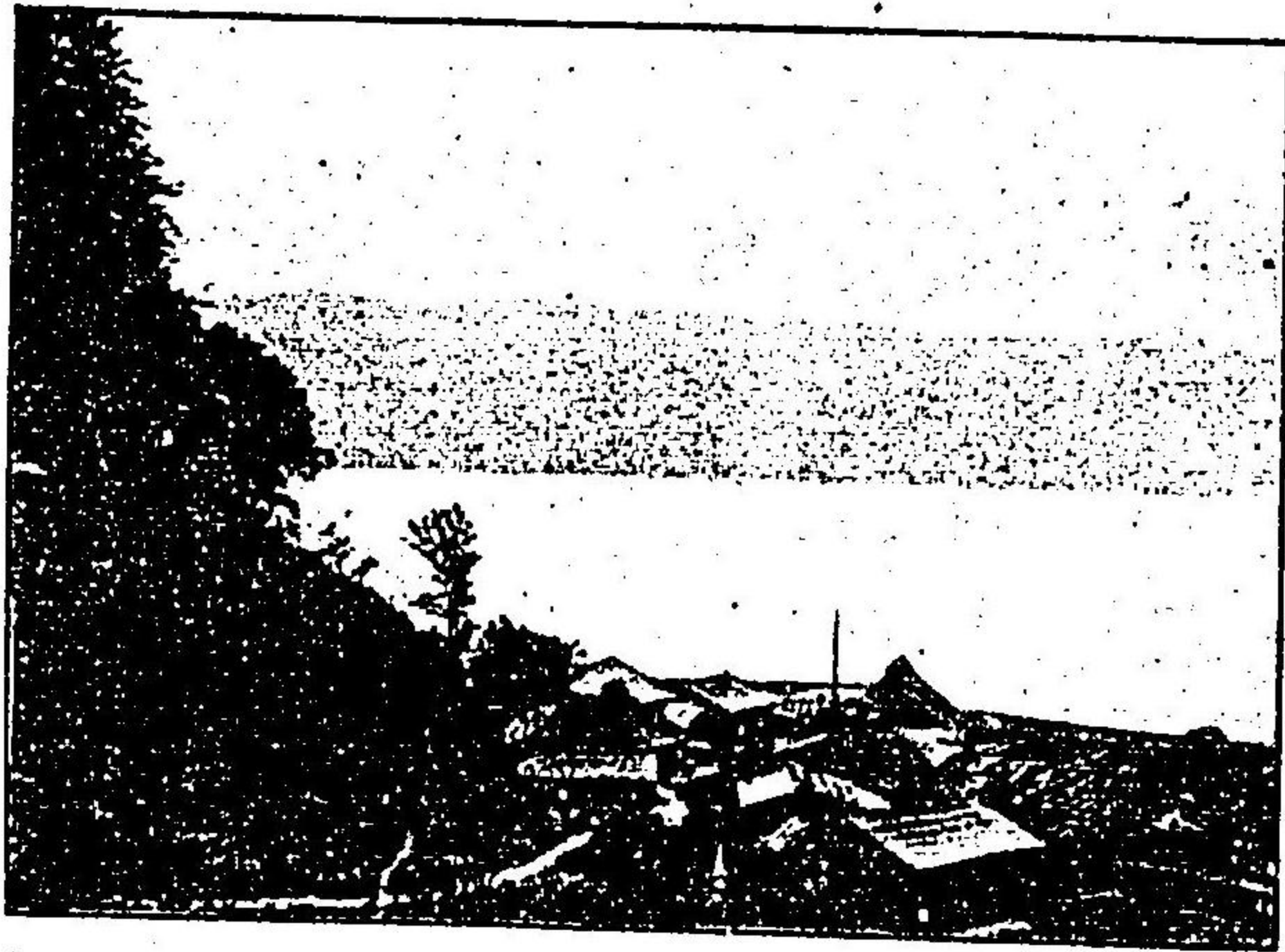
川の源となるのである、四周の翠巒逆に湖水に映じ、雲表遙に富士の靈峯を仰ぐの快もある、小舟を泛べて網を投じ、觀燈橋畔の旗亭に上り、潑刺たる獲物を下物に一酌を傾くれば、清風一陣醉面を吹いて、夏の樂此處にありの感が起る、湖中鯉、鮒、鯰、鮪、海老、蜆を産す、中に蜆は其味を以て第一の産とせられ湖て居る、

名月や兔のわたる諏訪の湖

蕪村

松本驛

飯田町より一五二哩四



淺間温泉 驛より一里四丁前に松本の市街を望み光景甚だ美、上淺間下淺間の二區に分れて浴舎八十餘戸、温泉は些も臭氣なし、飯を焚き茶を點す亦可なりである、土地は幽邃にして暑熱を避くるには尤適當な處である、

下諏訪驛 飯田町より一二四哩四

下諏訪町 西方に湖水を控へて眺望上諏訪に劣らず、上諏訪の雜踏に飽いた人は、須らく此閑靜な地にうつりて、靜に夏を忘るゝがよい、

○高崎線兩毛線及信越線

大宮驛 上野より一六哩六

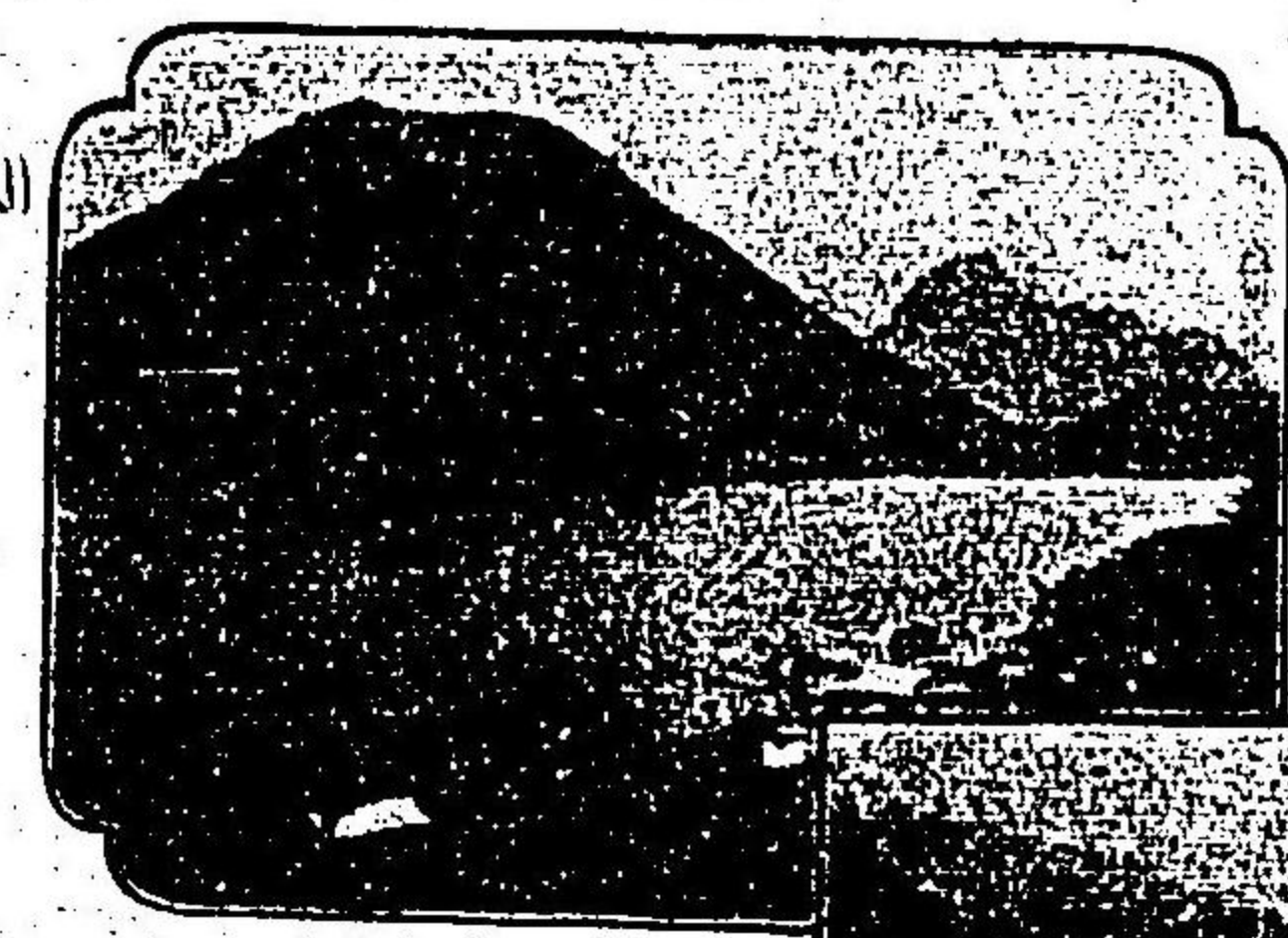
氷川公園 驛より十二町、氷川神社の境内である、社は武運の守護神素盞鳴尊を祭つてあるので、官幣大社武藏一の宮である、丹亞の美は無いけれど

清楚にして雅致あり、大祭は八月一日である。境内の廣さ約二萬坪、松杉相交りて天空を掩ひ、柳相擁して、池沼を繞る、風光幽邃暑を避くるには好適な處である。傍に見沼川とて、螢の名所がある。涼風を逐うて川邊を逍遙するまた忘夏の興であらう。

前橋驛

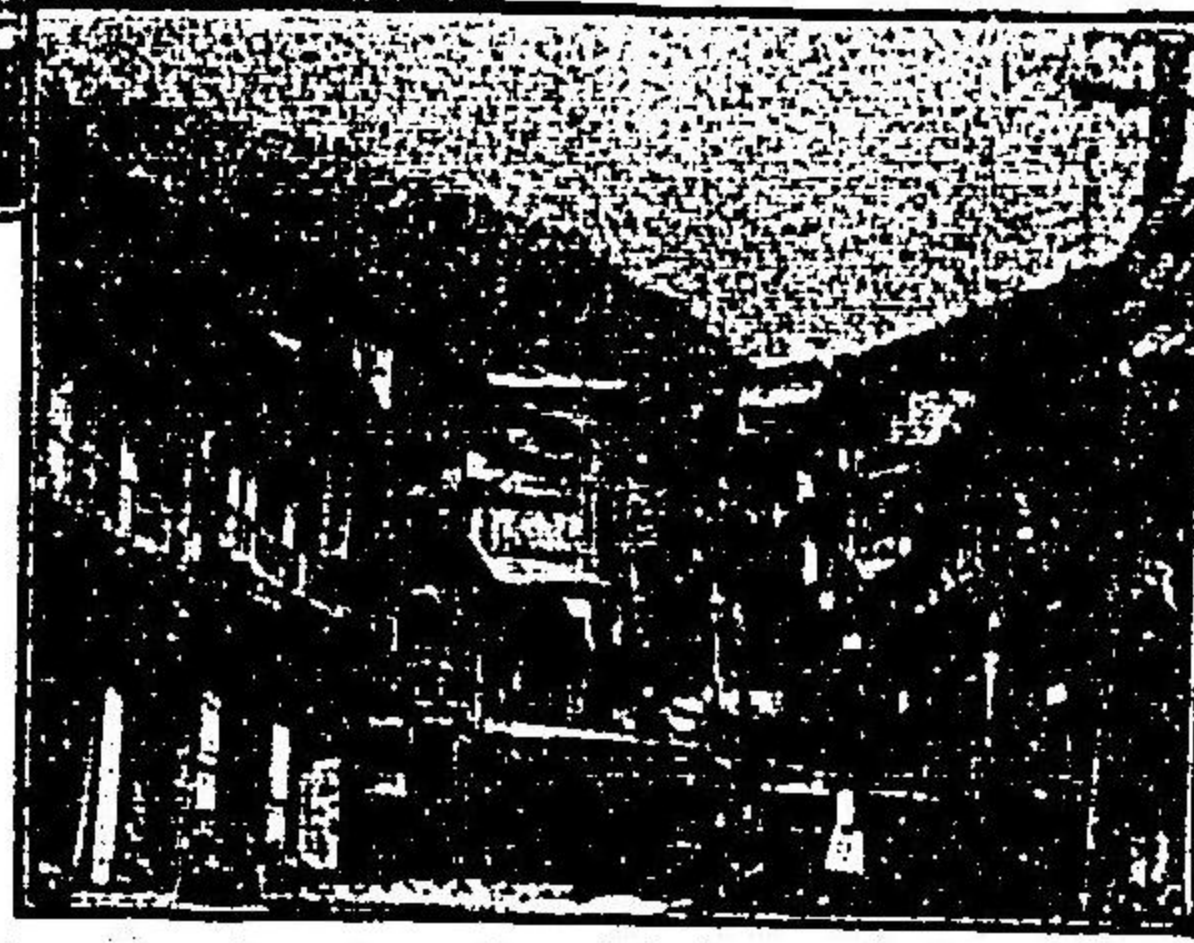
上野より六九哩二

伊香保温泉 驛より五里餘途中、川まで馬車鐵道の便がある。夫れより人車若くは徒歩にて二里餘を行くと温泉場である。人家概ね、嶮崖に築かれてあるから、甲樓は



伊香保温泉

乙樓の屋上に登え、層々相重なりて、離棚よるしくである。摺



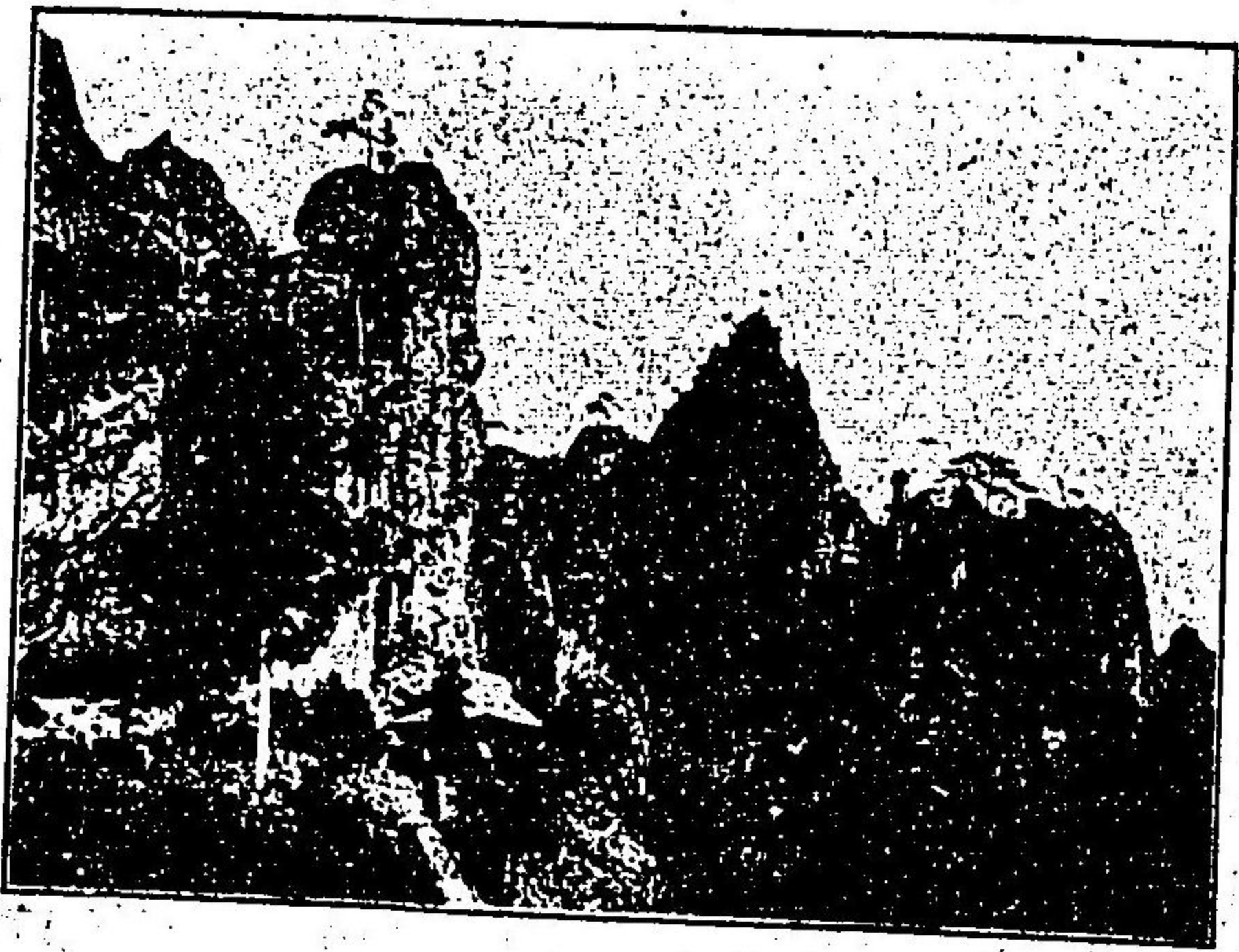
伊香保温泉街市

翠樓聚遠館など數十の旅館あり、孰も寔を設けて、屋内に温泉を引いて居るから、夜半早曉思ひのまゝに浴することが出来る。いかほろやいかほの沼のいかにして戀しき人をいまひと目見む

草津温泉 驛より十八里、信越線の輕井澤や豐野驛からは十里内外で近いけれど、道險惡にして交通不便なため、前橋から馬車の便に由るものが多し。泉質は無色透明の酸性泉で、效顯關東第一と稱せられて居る。土地高燥、海拔四千五百尺、空氣の乾濕人體に適して、天然的靜養の勝區である。

磯部驛

磯部温泉 下車して一步を移せばすぐに浴場である。前には碓氷河源々として流れ、後には妙義山鏡々として聳え、滿目秀麗、炎塵を洗ふの好適地である。泉は炭酸質冷泉で、火力を以て沸して入浴せしむる。磯部煎餅は此地



妙 義 山

の名産である。

松井田驛

上野より七八哩

妙義山 驛より一里十町餘、山は白雪
 金洞、金雞の三峯に岐れ、奇景絶勝を
 競うて聳え立つて居る、中にも金洞
 山は夏雲の蟠つてるやうな状をな
 し、峻岩峭拔、神工鬼鑿、天下稀に見る
 風光である、山中天然の四大石門あ
 り、天を摩して屹立する髭剃岩あり、
 鐵鎖に縋り、鐵梯を攀ちて頂上に登
 ることが出来る、觀音岩、夫婦岩、天人

ノ巻物、處々岩また見逃すべからざるものである、山の麓は即ち妙義町で

養氣館、東雲館など僻地には過ぎた宿がある、登山者は此處で支度をして
 案内者を雇ふがい、仙臺の靈氣に觸れて自然の秘を探らうとする人、年
 一年に其數を増すまた宜なりである。

横川驛 上野より八一哩四

碓氷嶺 驛に下車すれば、足は已に中山道第一の天險たる碓氷嶺を踏むの
 である、日本武尊の「吾嬬者耶」と嘆ぜられたのも此處、頼光四天王の一人碓
 氷貞光も此山中に成長したといふことだ、暫しの時を割いて崎嶇たる坂
 路を攀ちて仙境に遊ぶが好い。

鼻曲り山 驛より十二町を隔つのみ、名詮自稱怪しく曲りたる山の鼻を望
 んで、其端にある高さ六十尺の麻苧の瀧に汗を流すも一興である。

霧積温泉 當驛からも熊ノ平驛からも共に三里餘を隔て、居る、磯部と同
 じく冷泉であるから火力を假りて沸して居る、土地高潔、海拔三千八百尺

霧積川の清流濛々として流れ、山嶽四圍を要して滴々たる翠色夏の曇さを防いで居る。

輕井澤驛 上野より八八哩三

輕井澤 横川驛より碓氷峠に敷かれたアプト式鐵道に據り、十五分の一傾斜線を登り、二十六箇の隧道を潜るとはや輕井澤である。此處は廣漠たる原野の一隅で展望辟開風光絶佳、海拔三千八百尺空氣清涼夏季の暑さを知らない別天地であるから、毎年盛夏の候になると内外人の來りて遊ぶもの多く、今は紳士紳商の別業軒を列ねる有様である。旅館は執れも十分の設備を有し、和洋就れを選むも意の儘である。

田口驛 上野より一五八哩

赤倉温泉 驛より一里半北越第一の雄峯妙高山の半腹にあり、日本海を眼下に見渡し眺望雄大である。奥二里燕温泉あり、川村瑞軒が扶桑第一と稱美した名位瀧も半里餘の處にある。

○海岸線

土浦驛 上野より四一哩

筑波登山 驛より五里餘、道路平坦行路容易である。この山は突兀として平原に秀出せる名山で、古來詩歌に吟誦せられてゐる。海拔三千二百尺、頂は二つに分れて男體女體と唱へてゐる。山上開豁眺望千里、八州掌の指すに委するのである。

雪は申さずまづ紫の筑波山

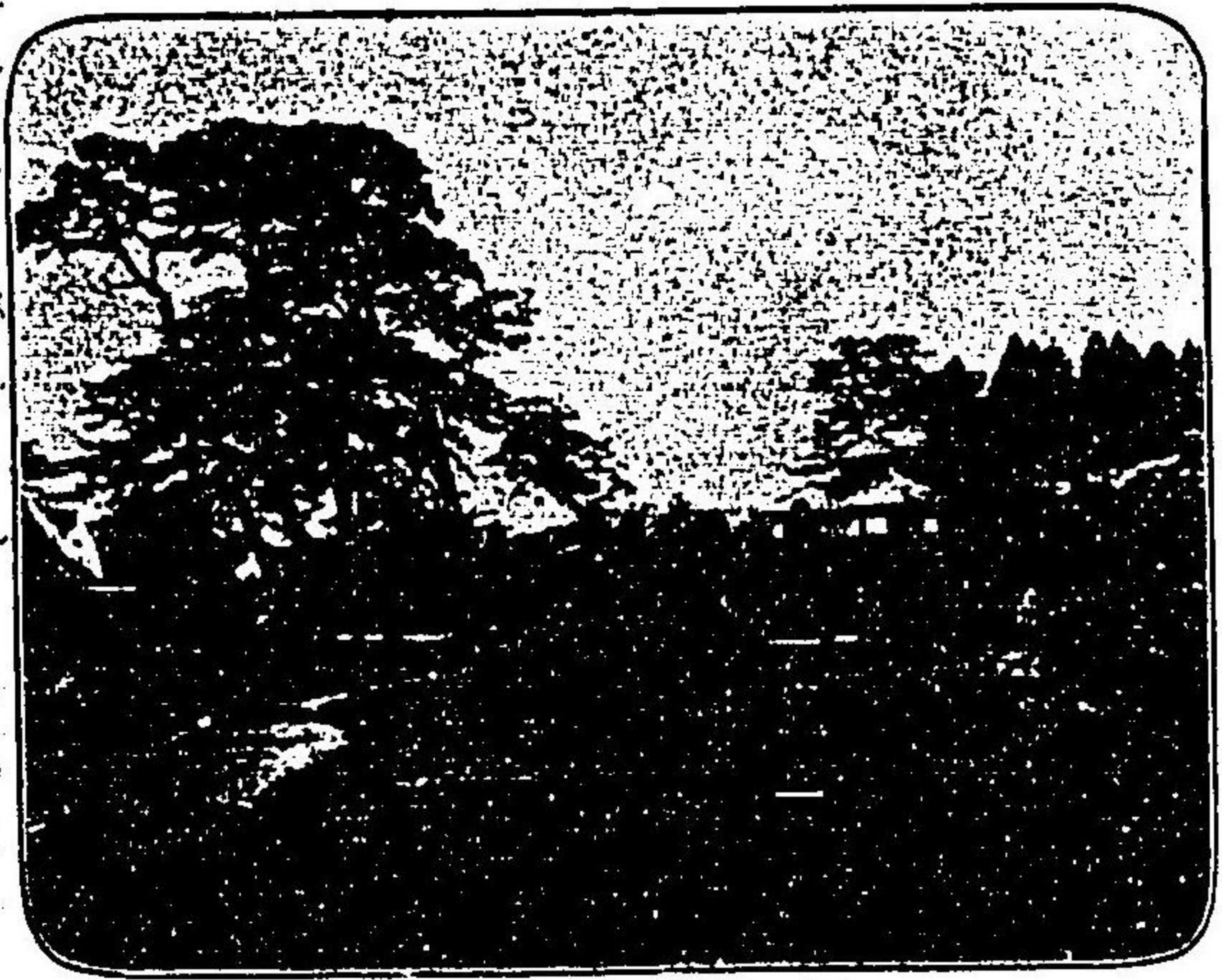
嵐 雪

水戸驛 上野より七三哩

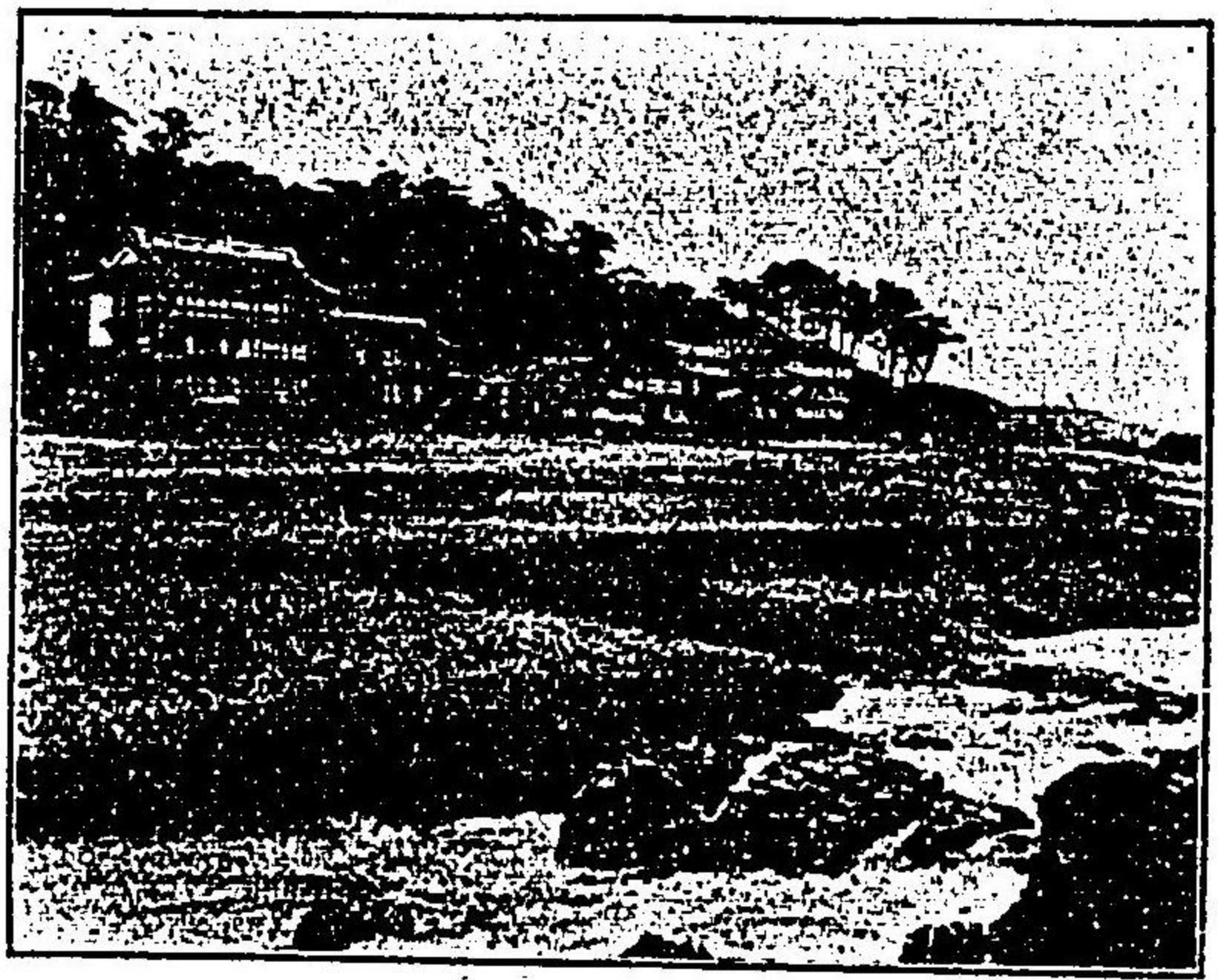
常磐公園 驛より約二十町、借樂園とも言つて日本三大公園の一天保年間

水戸烈公の經營せられたものである。烈公が諸士と共に詩歌の樂を催されたといふ好文亭、樂壽樓も残つてゐる。東南仙波湖に臨み、遙に筑波加波の諸峯を雲際に仰ぐ風光もある。梅の若葉蔭を徜徉して秋を涼風に吹かせるとも楽しいことであらう。

大洗海水浴 水戸より三里餘船車の便がある。前面渺茫たる大洋に面し、後方蜿蜒たる丘陵を貫ひ、一帯の青松白砂と相映じて、實に秀麗なる風光である。海岸線中助川と竝べ稱せらるゝ著名



常 磐 公 園



大 洗

な處で、鬼洗ノ澤、琴彈ノ瀧、烏帽子岩、磯、濱八景、大洗神社など杖を曳くべき處が多い。

磯が見えます、大洗様の松が見えます、ほのくと松がれ、見えます、いそほのくと、

助 川 驛

上野より九二哩七

助川海水浴 驛を下りて數歩はや海濱の人となつて居る、滄々たる碧の波、鬱々たる緑の山、前に後に見る目の邊から海岸にかけて、木振り面白き老松が列つて涼しさを呼び、水車の

瀧も其側にある、風光清絶閑雅幽遠、海岸線中稀に見る勝地で、世に第二の大磯と稱せられて居る。

高萩驛

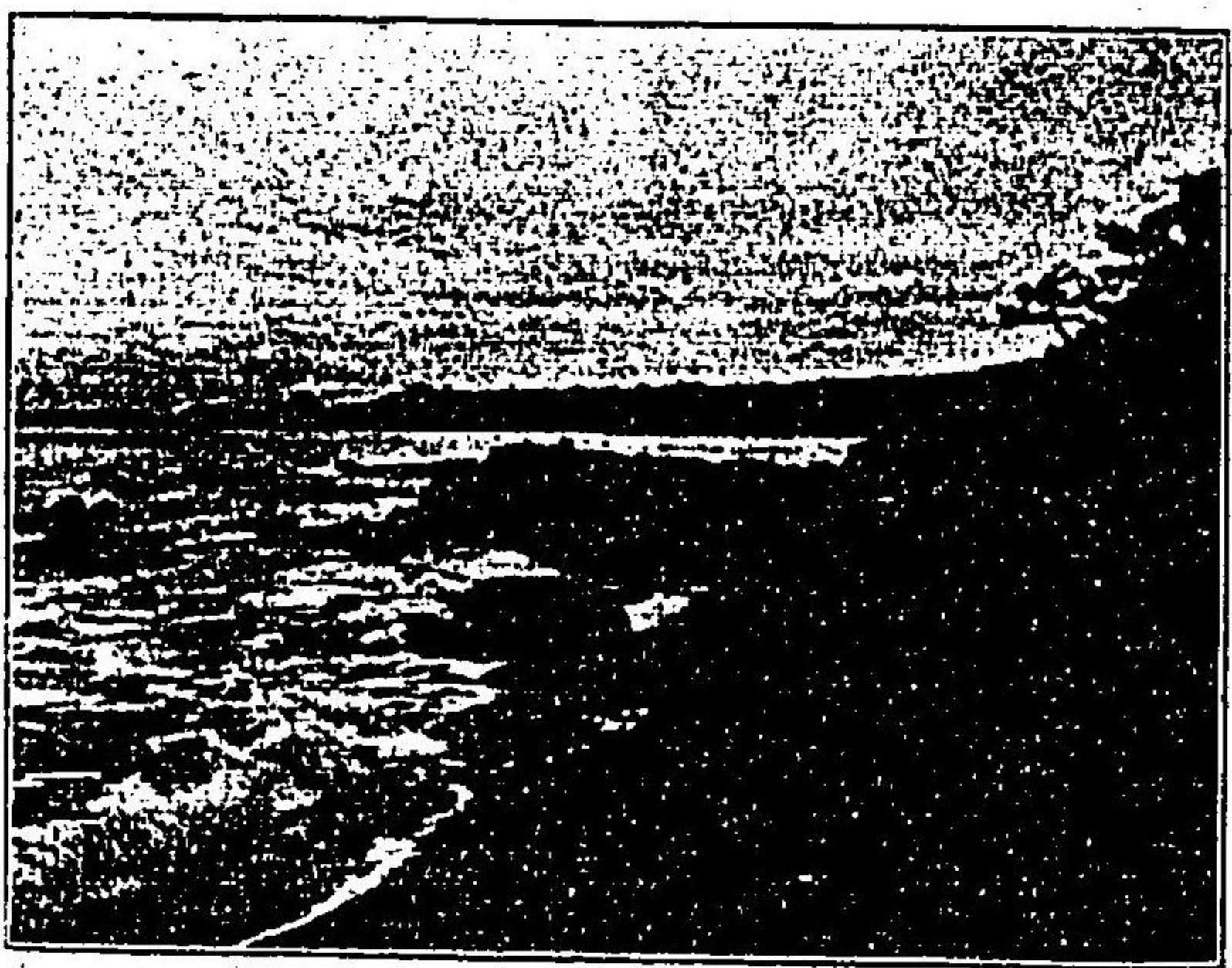
上野より一〇二哩四

高萩海岸 助川に次ぐ納涼地、浴場は驛を距る八丁高戸の濱に設けてある、山水の眺望秀麗、岸邊に鳴らす白浪の鼓の音を聞くのも興ある夕であらう。

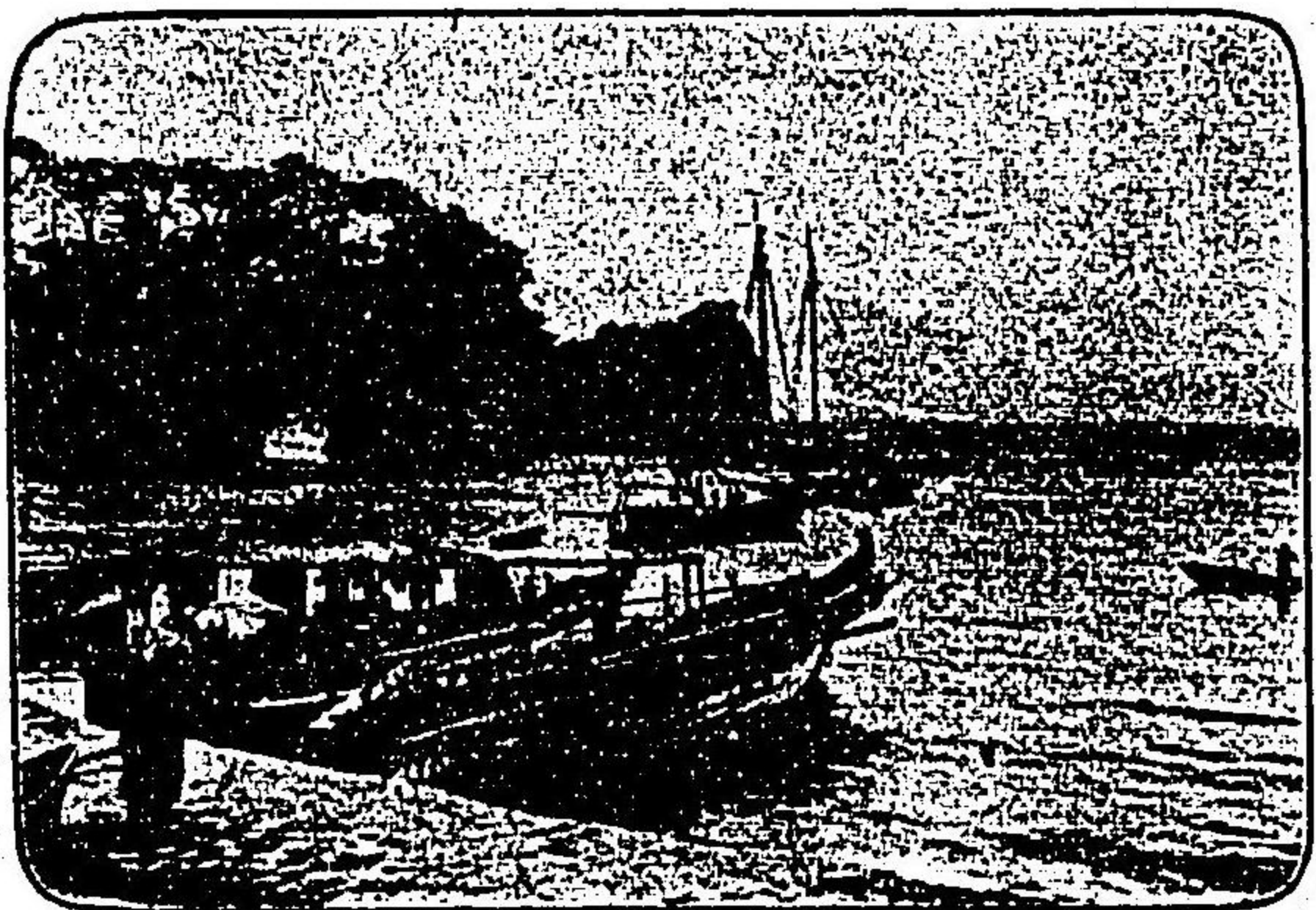
關本驛

上野より一一二哩四

平潟 驛より十三町、連山港を包み、前面僅に開けて外洋に對して居る、海媚び山秀で、一岬一島皆趣あり、狩野派の山水畫を見るやうだ、規模が小さ



助川



平

潟

い爲め箱庭的の視はあるけれど、古來濱海道第一の風光と稱せられて居る、芭蕉翁の「このあたり目に見ゆるもの皆涼し」と詠まれたのも此の處だといふ傳がある。

勿來驛

上野より一一五哩二

勿來の關址 驛より十五町、山路一徑自ら迷はず、峯巒後に聳え、蒼海脚下を遶り、眞に要害の衝、往時關所を置かれたのも尤である、綠滴たる若葉の蔭に關の碑を撫で、當年の碁を偲び、吹く風を勿來の關と思へども、道もせに散る山さくらかなと詠ぜし八幡太郎の

風流の跡を訪ふ、また興ある銷夏の一事である。

ちよろづの仇にむかへるものいふも

花さそふ風はすべなかりけり

季 鷹

なしめどもとまりもあへず行春を

なごその山のせきもとめなむ

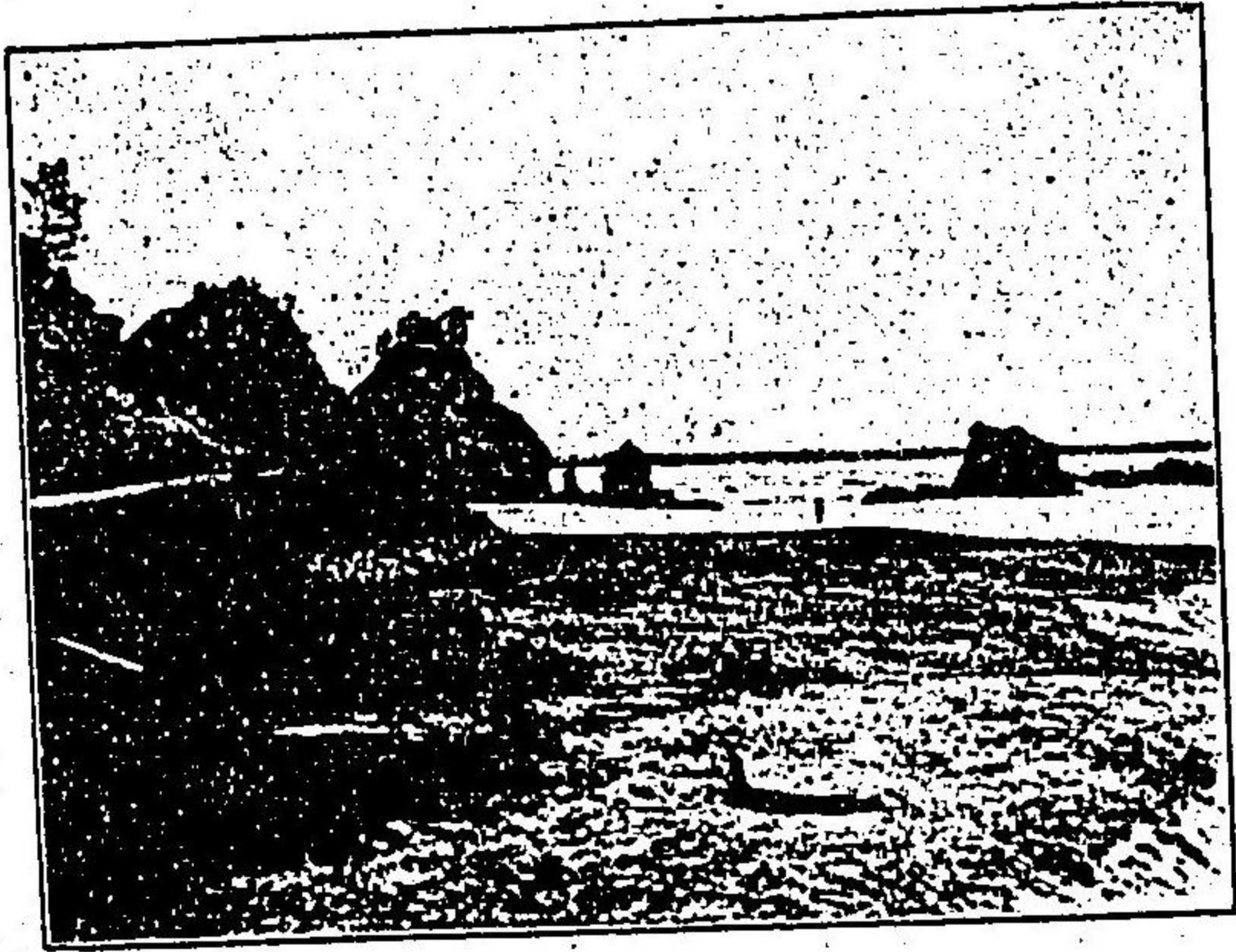
貫 之

中 村 驛

上野より一九二哩一

松川浦 驛より二里弱、烟波縹渺たる處、

岩礁星散し、其沙濱岸岨高下出入して



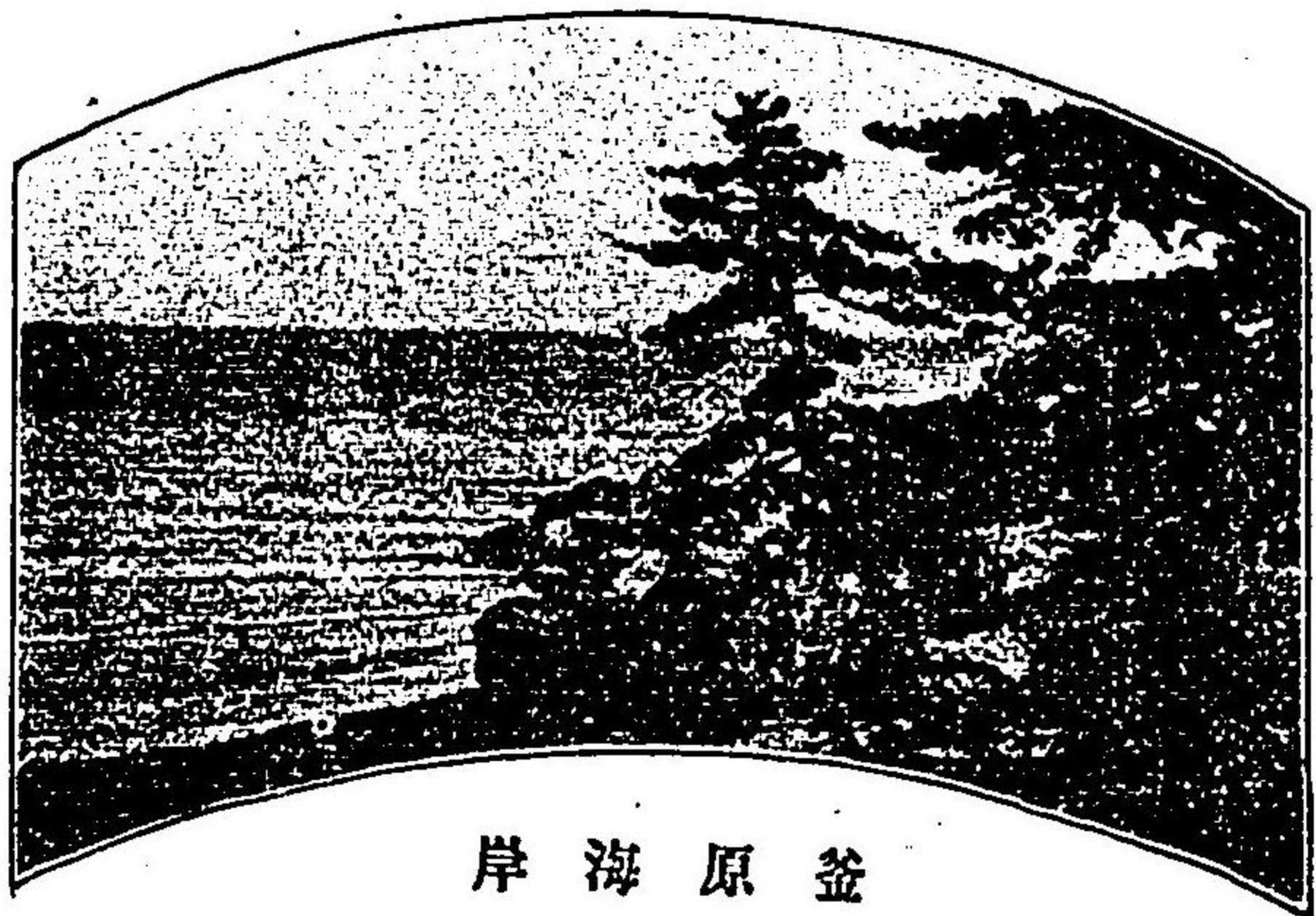
勿 來

奇勝に富む、水壅山の夕顔観音堂はこの
勝景を一瞬の裡に收むる處である。堂後
の山端は断壁直下數百尺、太平洋の奔濤
衝り碎けて飛散し、大浪至る毎に地爲に
震ふ、眞に壯快なる眺である。浦つゞきの
原釜には海水浴場あり、風光明媚な處で
ある。

松が浦とまりが磯と聞くものを

名にもさほらすかへる波かな

行 能



釜 原 海 岸

○東北線本線

日光 光 驛

上野より九〇哩九

橋 神

日光 本邦第一の遊覽場

「日光を見ずに結構を語
るな」といふ諺もあると

ほり、神社の壯麗なる、山

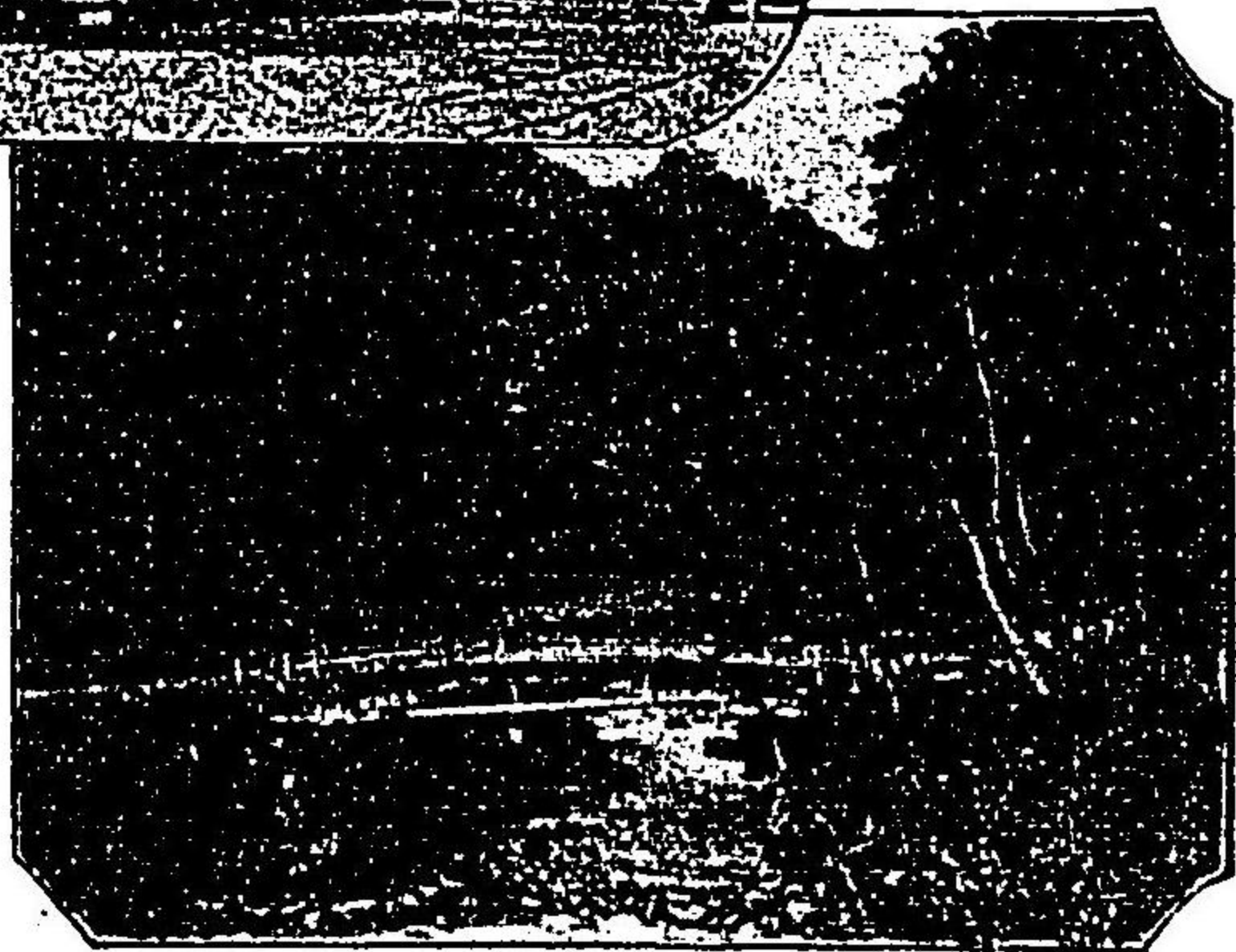
水の清絶なる、他に比す

べきものがない、日光廟の構造の偉大壯麗なる、金

堂の金光燦爛人の目を射る、神殿の宏大華麗なる、

陽明門の光彩絢爛見る人をして日の暮るゝをも

日光廟



忘れしむる、本殿の精巧盡美なる、今更あらためて説くを要せない處であ
らう。

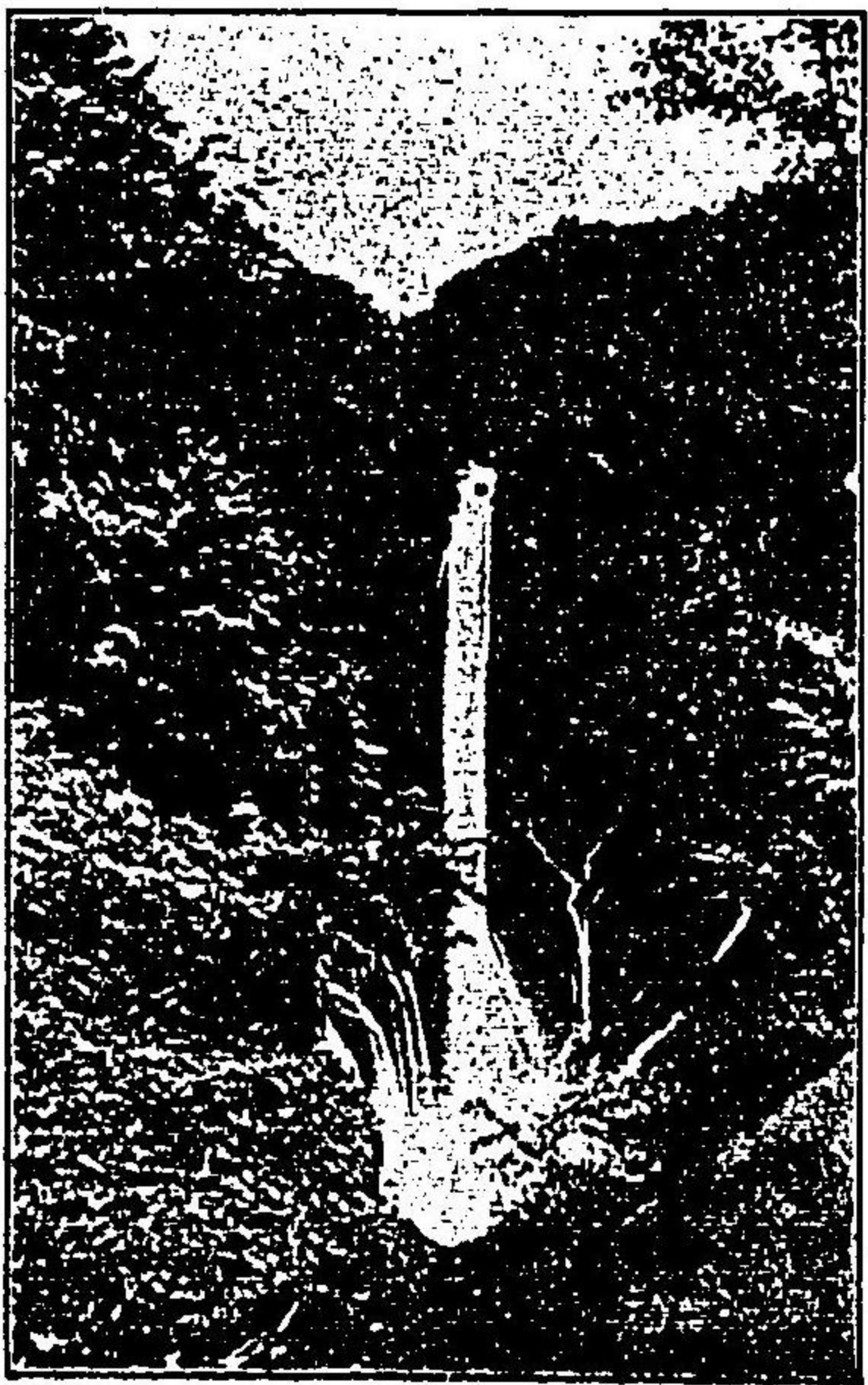
あらたふと青葉若葉の日の光

はせな

瀑布 日光廟拜觀に一日を費したる、其翌日は山中の瀑布に炎塵を洗ふが
よい、霧降、含滿、裏見、方等、般若、華嚴、布引、白糸、相生、一日の散策には十分であ

る、水勢岩峭に激して流沫の
飛散する霧の如き霧降、仙女
姿を愧ぢて素簾を掩ふが如
き般若、方等、咆哮として潭中
に落つる狀銀蛇の洞に飲む
に似たる華嚴、皆それくの
趣がある。

くだけでは三千尺や瀧の月 蓋太



華嚴瀧

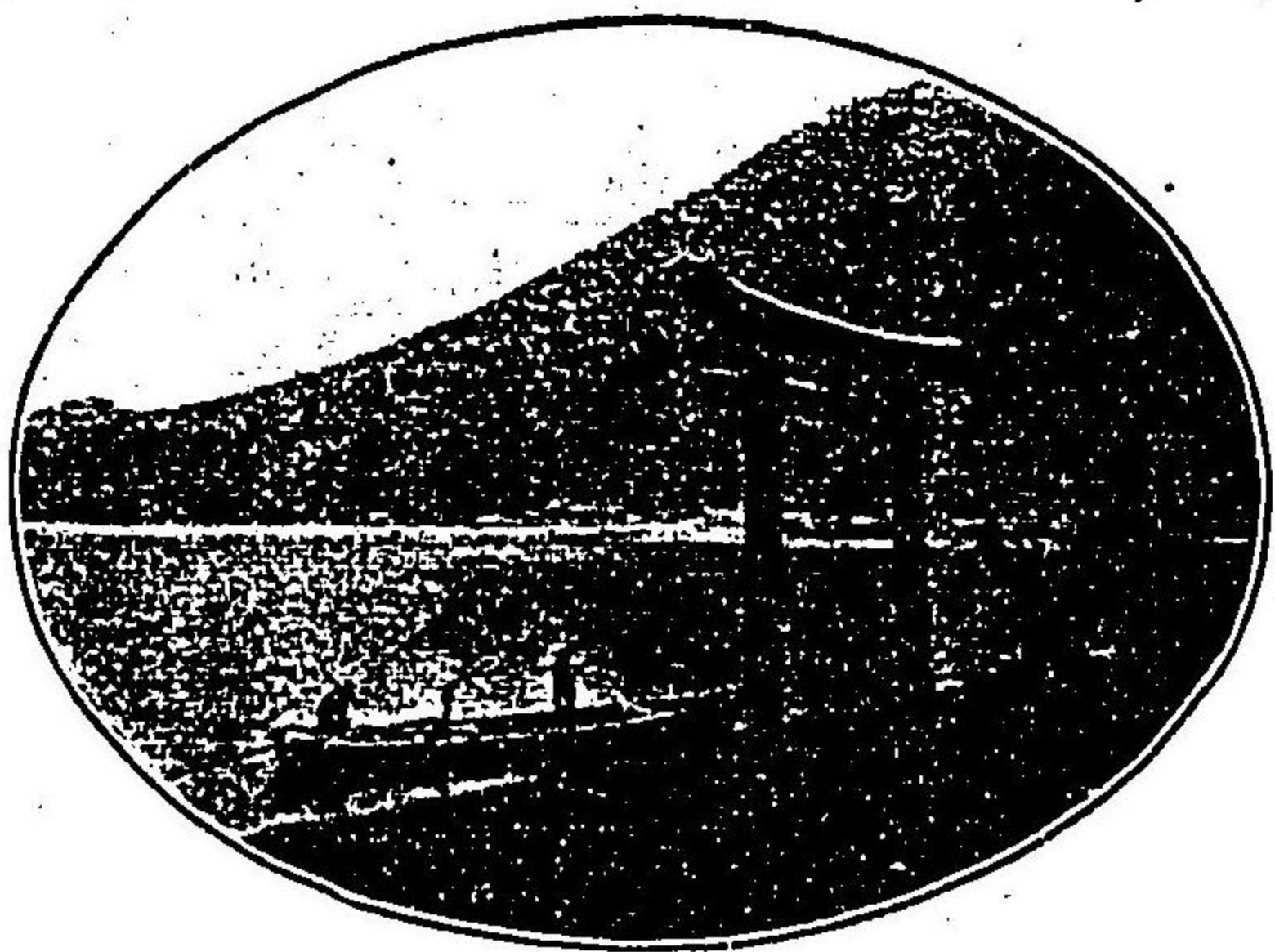
わが歌に入れがたき名の多きかな

華嚴ほうとう般若きりふり

中禪寺湖

日光より四里餘、東西二里、南北

三十町、水光一碧翠巒四方を環りて、絶勝
あらはすに言葉がない、湖畔旗亭旅舎數
戸あり、欄に倚れば湖邊の風光悉く雙眸
の中におり、涼味津々夏尙ほ秋の如して
ある、故子規子嘗て此處に遊んで下の如
く記して居る、中禪寺の湖は一度余が目
に觸れしより後、再び忘るべからざる地
となれり、黒きまで濃き山の縁、骨にとほ
りて靜なる水の色、沈みて動かざる空氣、
さびしく光る夕日、死人の顔の如き冷氣、



中 禪 寺 湖

肖像の口の如く黙したる木の葉、人跡を印せざる太古の苔、植物學者の知
らざる不思議の草花、およそこれらの奇異なる光景に打たれて、余もまた
周囲の萬象と共に沈黙する他はなかりき、こゝに至りて夏と言ふ感ほま
づ余の腦裏を去り、次に世間といふ感漸く去り、やがて自己といふ感もま
た惘然としてとりとめなくなりし時、余はこの沈黙せる萬象を通じて一
道の活氣を感じたり、余ははじめてこゝに神祕的美を感じ得せるが如し、

月に水涼しき夕神あらむと、

晝寢さめて湖畔の森に遊びけり

子 規

西那須野驛 上野より九二哩一

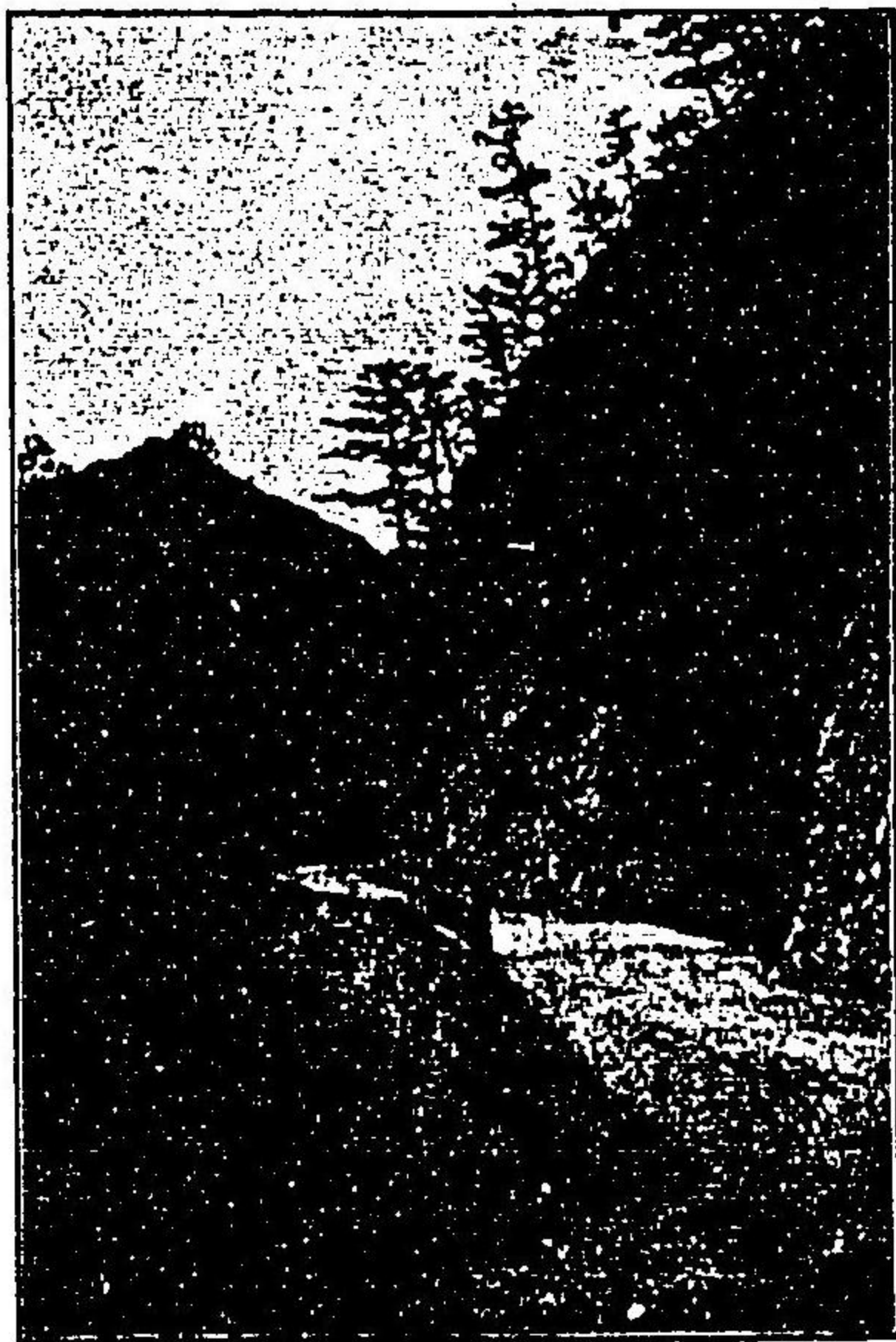
鹽原温泉

驛より約五里、道路平坦なり、人車を雇うて實朝の武士の矢なみ

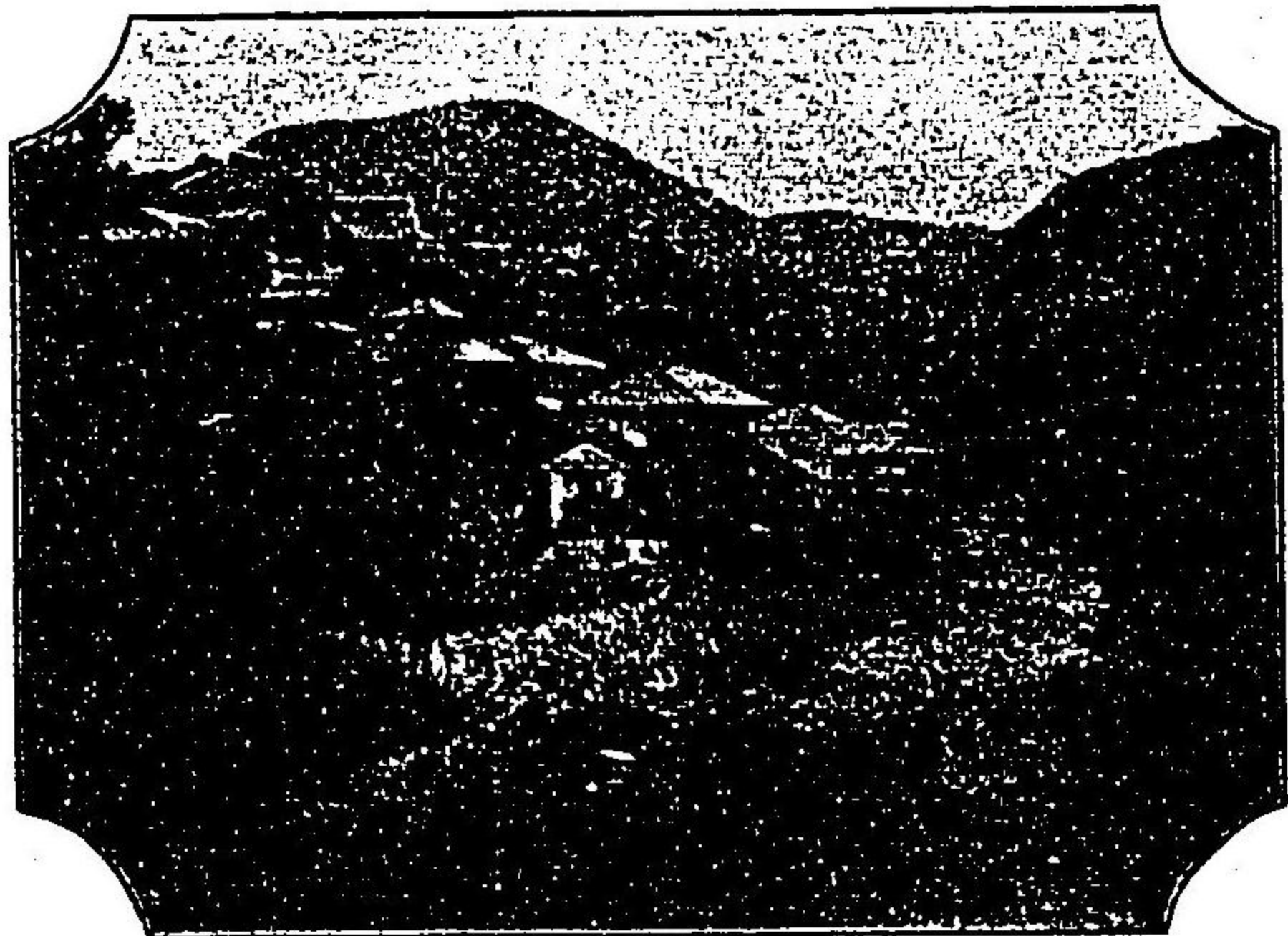
つくろふ小手の上に寝たばしる那須の篠原、その篠原の荒蕩たるを眺め

ながら行くと、二時間足らずで下鹽原に達するのである、紅葉の鹽原遊記

に「車を驅りて白羽坂を踰えてより、回願橋に三十尺の飛瀑をふみて、山中の景初めて奇なり、これより行きて道あれば水あり、水あれば必づ橋あり、全徑にして三十橋、山あれば巖あり、巖あれば必す瀑あり、全嶺にして七十瀑、地あれば泉あり、泉あれば必す熱あり、全村にして四十五湯、なほ數ふれば十二勝、十六名所、七不思議一々探り得べくもあらず」とあり、誠にし山高うして白雲深く、水清うして彩花亂るゝ處、造化の特に心を單めて造り成したる仙郷である、重なる温泉場は大綱福渡、鹽釜、鹽の湯、畑下、月、門前、須卷、古町、古湯本、新湯の十箇所で、孰れも十町内外に散在して、待川の清流に臨んで居る、



原 鹽



飯 坂 温 泉

次第に下層に降るのも他と様かはつて珍らしい感じがする、鹹泉は鱒湖

長 岡 驛

上野より一七三哩七

飯坂温泉 驛より一里餘、招上川に添うてゐる處である、兩岸絶壁にして水清く、河底巖石起伏して龍虎の如く、水爲に激して白浪全湧し、怒號の音、遠雷を聞くが如き感がある、家屋は崖に添うて建て、あるもので、前から見ると平屋のやうだけれども、川の方から望むといづれも三階若くは四階である、四階から三階二階と

湯、波古湯、瀧湯、赤川湯など皆摺上川畔に湧出するので、日本武尊御東征の時、心地例ならず此泉に浴し給ひしに、不思議や春の淡雪の消ゆるが如く、病氣が愈えたといふのが鱒湖湯ださうである。

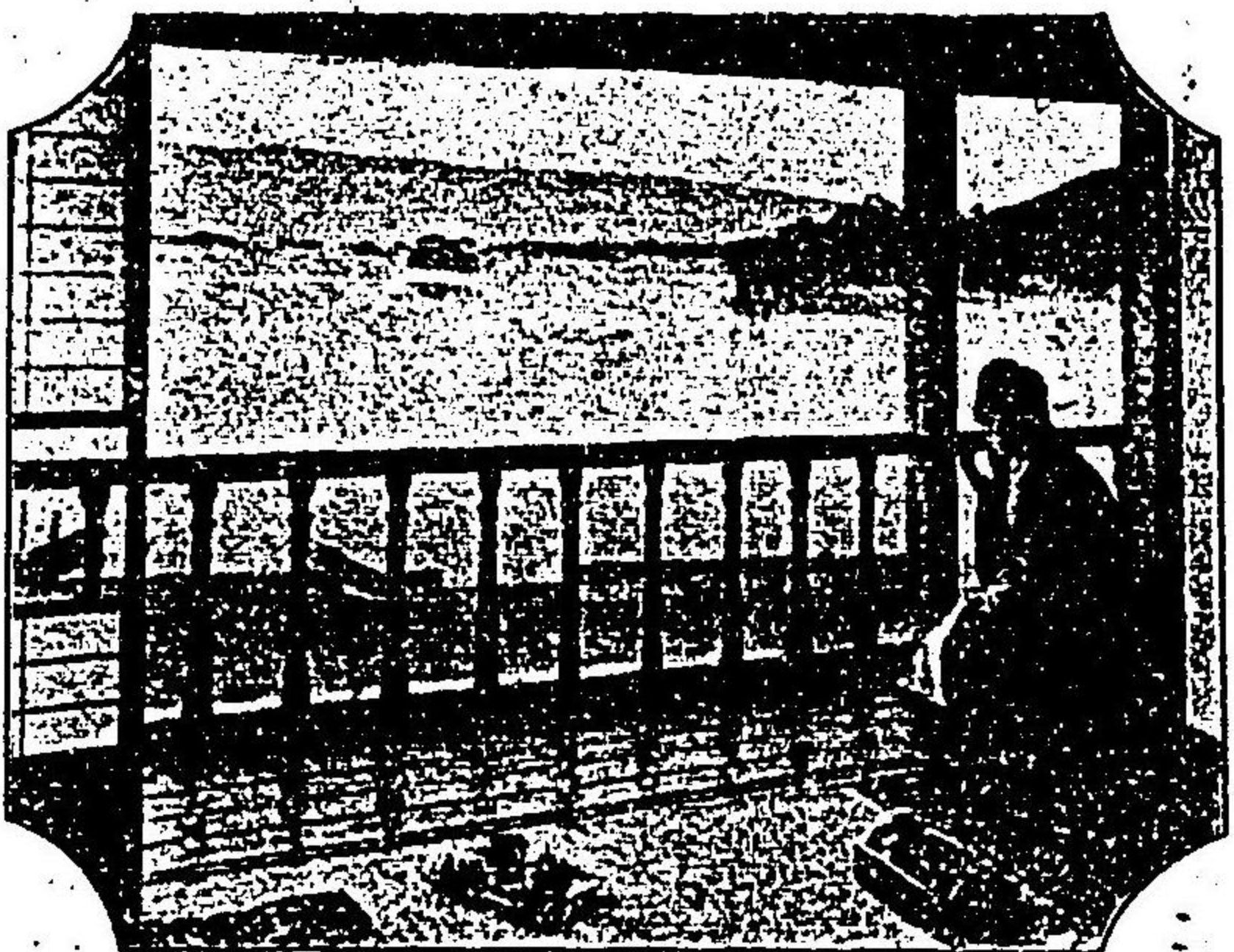
鹽竈驛及松島驛

上野より二二六哩五
及二三二哩一

松島 上野驛より二百哩以上も離れては居るけれども、日本三景の随一として、夏季旅行の好適地として有名なる處であるから、當國に於ては特に松島遊覽割引乗車券を發賣して居る。鹽釜に下りてまづ海上の奇景を探り、それから、五大堂、觀瀾亭、瑞巖寺を巡覽して松島



松島



陸的風物の面影があるのに反して、此處ばかりは造化が頗る技を弄んで居る事である。蓋し七州の繊細悉く此地に集められたものであらうか、八

驛に出るとも、或は松島驛に下りて鹽釜に出るとも、時間の都合で遊覽者の隨意である。灣内の廣さ東西三里南北二里半、一島一松皆奇態妙景を有せざるものは無い。此の絶勝を雙眸の間に萃め、パノラマ的に觀望し得べきは、富山、大鷹森、多門山、扇溪の四高地で、松島の四大觀と唱へられて居る。松島に行つて誰でも不思議に感ずるのは、足一度白河の關を越えて、天遠く山長き東北の天地に入れば、山も河も草も木も島國的の形態を脱して、大

百の青螺波穩なみおだやかにして、白帆點々ふか飛鳥低く飛ぶ處宛然一箇の好盆栽かうはんさい唯金魚きんぎよの泳ぎ居らざるを怪しむばかりである、若しそれ五大堂の邊に舟を着けて觀月樓に月を待たむか、夕陽の沈む間もなく東の海面赤うなりて堂の後邊明るく、白き波に島影松影透し橋の影映じて、島も松も橋も浮び出でんかと思ふうち金色の縁をとれる雲の一片嫦娥の腰に纏へる羅縞の如く、飄々たる風に舞うて飛ぶかと見るまに、月がほのめき出づる、月前の島影墨よりも濃く小波の寄するまに、まに、月波に光を墜して長く一條の金モールを布く、船歌清う出汐に棹さして行く船は



三ノ島松

月宮殿にや行くらむ、廣寒宮にや至るらむ、清興夢に通ひて幾年の末尙ほ忘れがたき風光である、「松島古來無一時」と大窪天民が嘆じたのも、松島やあゝ松島や松島や」と蕉翁が筆を捨てたのも無理からぬことである、松島や鶴に身を借れほとゝぎす

曾 頁

平泉 驛 上野より二七八哩三

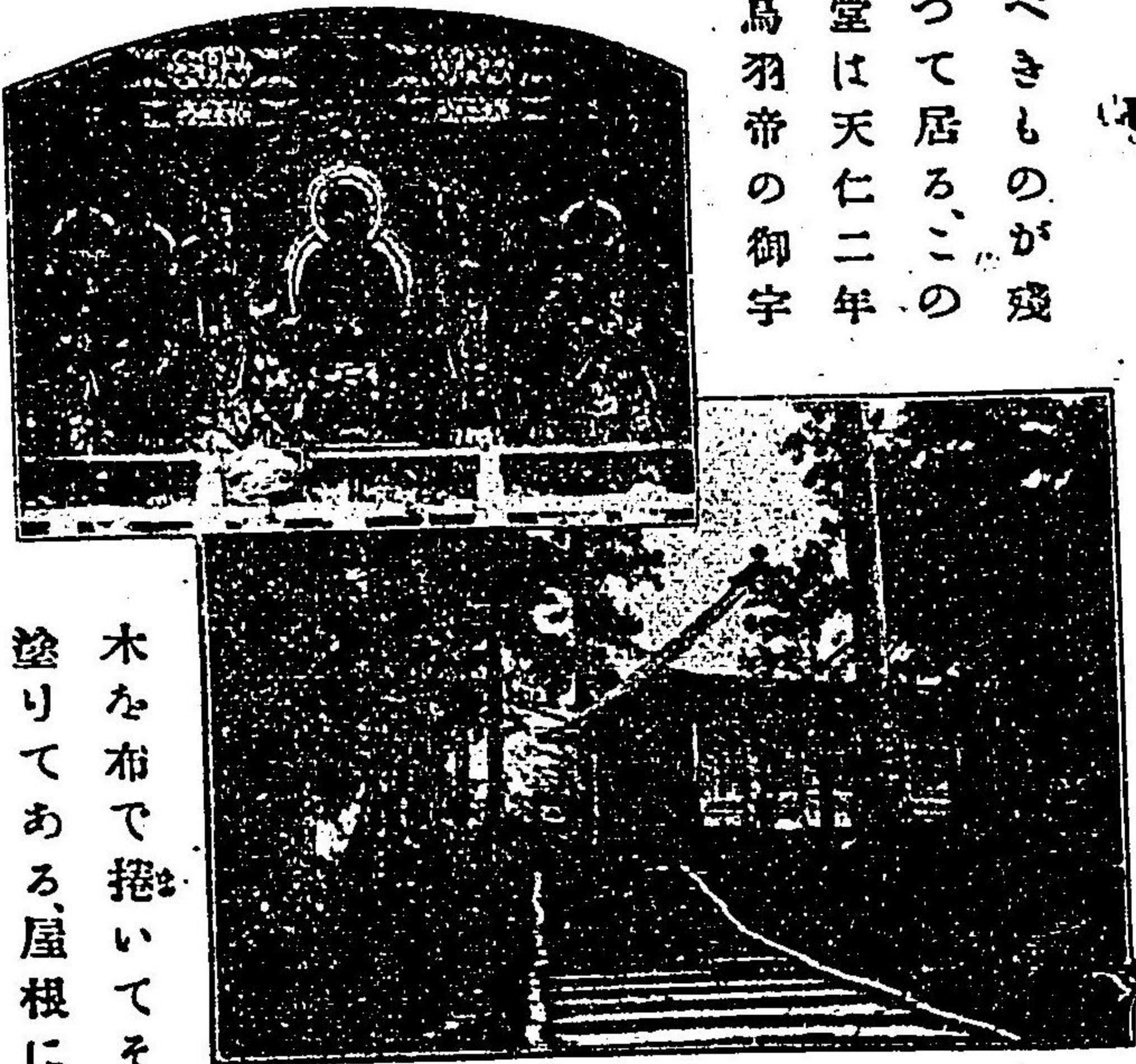
平泉 「三代の榮耀一睡」の中にして、大門の跡は一里こなたにあり、秀衡が跡は田野になりて、金鷄山のみ形を残す、先づ高館たかたてにのぼれば、北上川南部より流るゝ大河なり、衣河は和泉が城をめぐりて、高館の下にて大河に落ち入る、泰衡等が舊跡は衣ヶ關を隔て、南部口をさしかため夷を防ぐと見えたり、さて義臣すぐつて此城にこもり、功名一時の叢くさむらとなる、國破れて山河あり、城春にして草青みたりと、笠打敷きて時のうつるまで涙を落し侍りぬ、

夏草や兵どもが夢のあと

と芭蕉が奥の細道に書いたのは此處である。實にや奥州の三衡が威を八方に振つた昔の春も夢のまた夢、今は只一の荒廢たる村落となつて了つて、頼朝の鎌倉とおなじ光景に成つて居る。玉城に擬したといふ大門の跡も、空しく莖草に委して昔をたどるよすががなく、國衡重衡の朱樓碧殿の跡、化粧坂の跡など今いづれに尋ねべしや、嵐氣語らず、流水長へに逝いて、また遊子の腸を断つべきものがある。

中尊寺 は山を十町も登りて行く、俳人三千風の文の通り「當山は行基悲覺の誤り」開闢より法繁の靈地として、眞天二宗の梵閣やごとなき聖跡なりしが、いつしか老松枝を垂れて御坂をかくし、若羅露されては參詣の履を滯む、杉外の一燈耿々として神寂びたり、石室金床いつしか蝸蝸の園となり、百房千舎いたづらに臥猪の宿となりにけりて、固より嗜昔の榮華の面影を留むるばかりで、殆んど荒廢し盡されては居るが、尙ほ金色堂の見る

べきものが残つて居る、この堂は天仁二年鳥羽帝の御宇



木を布で捲いてそれに漆を塗り、其上に又金箔を塗りてある、屋根には瓦なく唯金箔ばかりである。

藤原清衡が建立したもので、三間四面柱の高さ一丈九寸に過ぎない、寧ろ其規模の小なるに驚くけれども、實に日本有数の建築と言はればならぬ、同時代の建築としては別に宇治の鳳凰堂があるけれど、これは後世修復を加へた爲め大に趣を損して居る、今その建築の模様を見るに、材

内部は柱も梁も構もありとあらゆるもの。珠玉螺鈿を鑲めてあつて、彩磨の軒、琢彫は相見るに、曉かわきいふに口吃むとはこれである。堂内檀上に十一體の佛を安置し、檀下床、上清、衝基衝秀衝の棺があるが、それに彫られてある孔雀の圖にも、藤原鎌倉時代美術の變遷が推知せらるゝ。凡て目に觸るゝもの皆懐古的興味を催すものばかりである。はせなが

五月雨の降り残してや光堂

と詠じたのは此處、昔は金色堂の金の光がキラ／＼して眩き爲め、北上川の鮭が其上流へは上り得なかつたさうだ。境内幽邃静寂、古松老杉參差として、高く聳えて天を突くあり、低く垂れて地を撫するあり、北上川の流、駒ヶ嶽の翠、朝業銷沈の跡を偲ぶには十分な眺がある。

○總武線

稲毛 驛 兩國橋より二〇哩二

稲毛海水浴 驛より下車して五六町すれば袖ヶ浦の海濱である。土地高燥、空氣清涼、青松白沙眺望にして、關東の須磨明石と稱へられて居る。松嶺を聞いて偃臥し、眠り飽いて去つて清波に夢を洗へば、武相の諸山蜿蜒として連なり、富岳の秀麗其上に微笑む洵に得がたき佳境である。海面は遠淺にして、婦女子にも恰好な海水浴場である。

成東 驛 兩國橋より四五哩七

浪切不動尊 驛より六町、奇石怪巖連疊して、嶮然平地に屹立し、さながら築山のやうな懸崖の上に、朱欄高く聳えて居るのは奇觀である。一度邱上に

登れば兩總の山水雙眸に落ち、身既に畫中の人となるのである。行基僧正巡錫して此地に來り、近海船舶の沈没して溺死者の多きを憐み、幽魂を弔せんため、不動の像を刻みて安置せられたといふことである。

成東鑛泉 不動堂下より湧出する含鐵炭酸食鹽泉で、奇拔なる不動尊の風光と共に、有名なる靈泉である。

飯岡驛 兩國橋より六三哩九

岩井不動の四十八瀧 驛より二十八町、本尊は弘法大師の刻まれたものだといふ、三面丘陵に圍まれ、老樹陰森たる間に、四十八條の大瀑小瀑天外より落下す、滿山たる清涼、一塵も止めず、夏期此瀧に浴して腦症を癒さむとする人多きは尤である。

をちこちに瀧の音聞く若葉かな

燕村

飯岡海水浴場 驛より一里二十町東方に突出するを飯岡岬といひ、これよ

り南上總國大東崎に至るまで、海濱絶えて凹凸なく、渺漠たる平沙灣形をなし、さながら弓を張つて居る様で、これが所謂九十九里が濱である。海水浴場は此岬邊にあり、遙に犬吠ヶ崎と相對して、風光畫の如しである。

銚子驛 兩國橋より七二哩七

銚子 總武線の最終點である。利根川の河口で常陸の羽崎と相對し、港頭岩礁多くまことに奇觀である。犬吠岬の海水浴場に赴く沿岸は、風色特に美、俗に磯廻りと云つて居る。川には汽船の便があつて、息栖、鹿島、香取の三社廻りは勿論、佐原より更に常陸の北浦、土浦、霞ヶ浦などに探涼の船旅をすることも出来る。圓福寺、妙福寺、淨國寺、寶滿寺など皆いはれある巨刹である。

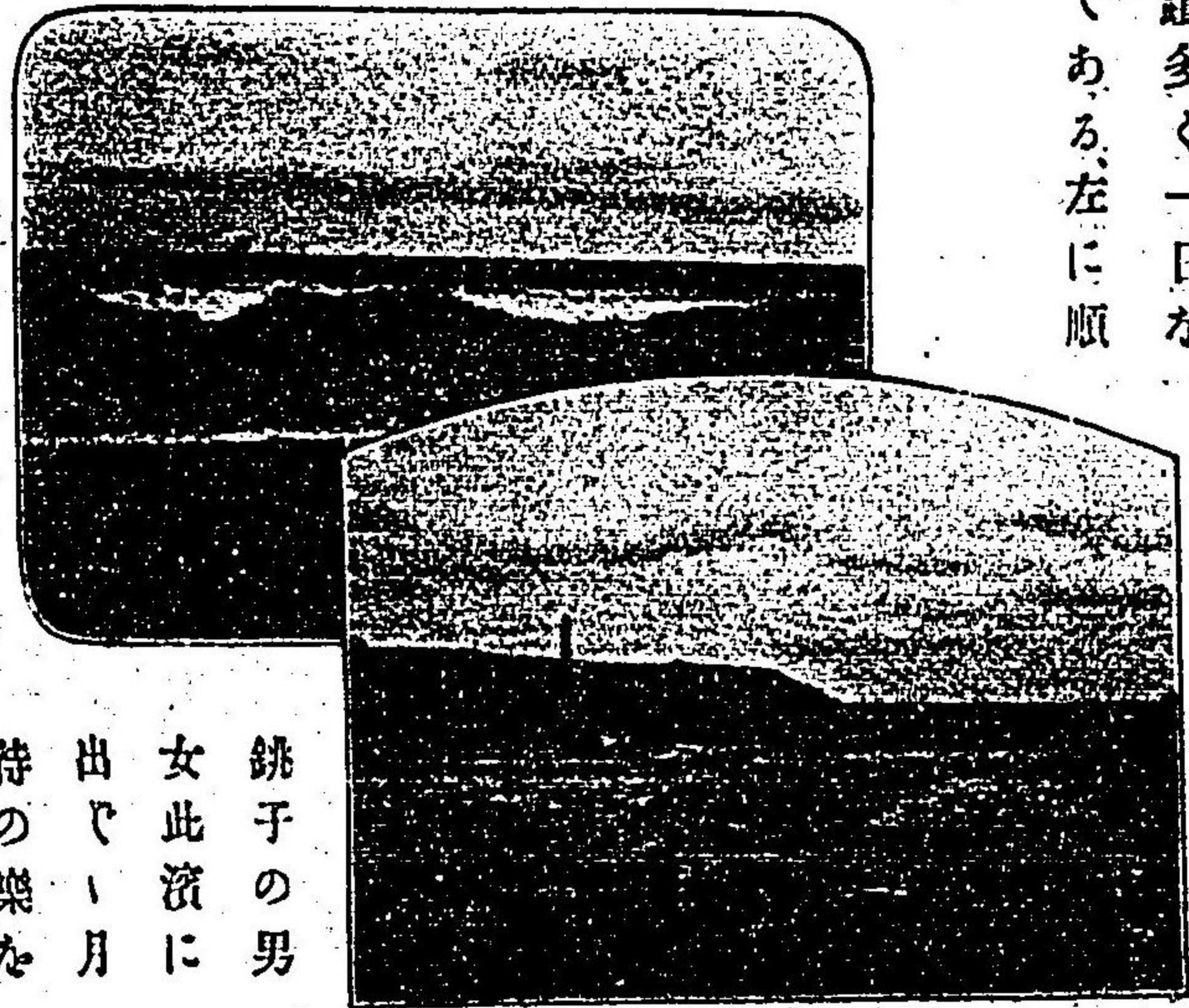
磯廻り 犬吠岬はさながら巨人の鐵拳を固めて突き出して居るやうだ。銚子は手首で、女夫岬が親指、犬吠の岬端は中指を折りた尖で、犬若、名洗は掌

の畔こしらに當つて居る、此の間名勝舊蹟多く、一日を費して僅に見終る事が出来るのである、左に順次畧記しよう、

浅間山

銚子全湖の風景一瞬の

もとに集り、雪の朝景色なす銚子漁村の蠣壳屋根、利根の水流大洋の波浪と相激して、白蛇の相噛み相搏つが如き光景がある、初日不動堂の左右には瀑布あり、川口明神社の眺望は浅間山に劣らず、女夫岬は東端の岬角で、此邊、一帯の海濱を平磯と言ひ海中帆掛の奇岩あり、陰曆七月二十六日の夜は



銚子海岸

銚子の男
女此濱に
出で、月
待の樂を

する、黒生浦より海鹿島を眺めて一轉すれば、青松白沙一望數十町、其極端白色の高塔の見ゆるは燈明臺である、此邊波荒くして白霧濛々故に霧ヶ濱の名がある、犬吠ヶ岬また石切の鼻ともいふのは、海上砥の産地であるからである、岬邊波打際に通ずる岩窟を胎内潜りと言つて其東南端に燈臺がある、白色圓形の煉瓦造りで、高さ九丈海面を挿んで、居ること十七丈餘、燈光は旋轉白色にして半分毎に一閃光を發し、光芒能く十九哩に達すると云ふことだ、

銚子海水浴場 燈臺より砥石山の地藏坂を過ぐると西明の里で、前は鰐漕たる海波眺望果なく、後は翠松相達りて、此處に一箇の仙郷がある、海水浴場はこの好景の中に設けられてある、こゝより名洗浦に至るまで長崎ヶ鼻、外川ノ濱、仙ヶ窟、犬若島みなそれくの風光あり、一日の磯廻りまた興多きことである、

○房總線

一宮驛及大東驛

兩國橋より四九哩
五乃至五三哩五

海水浴場 一宮地先より大東岬に至るまで、九十九里灣に瀕する平沙曲浦にして、特に大東岬邊は水天渺茫の間に犬吠ヶ岬と相對し、奇巖亂立一里に及び、波濤之に激して泡沫雪片の如く、蹴躍り浪醉ふ、また快絶なる眺である、共に海水浴場の設あり、



一宮海岸

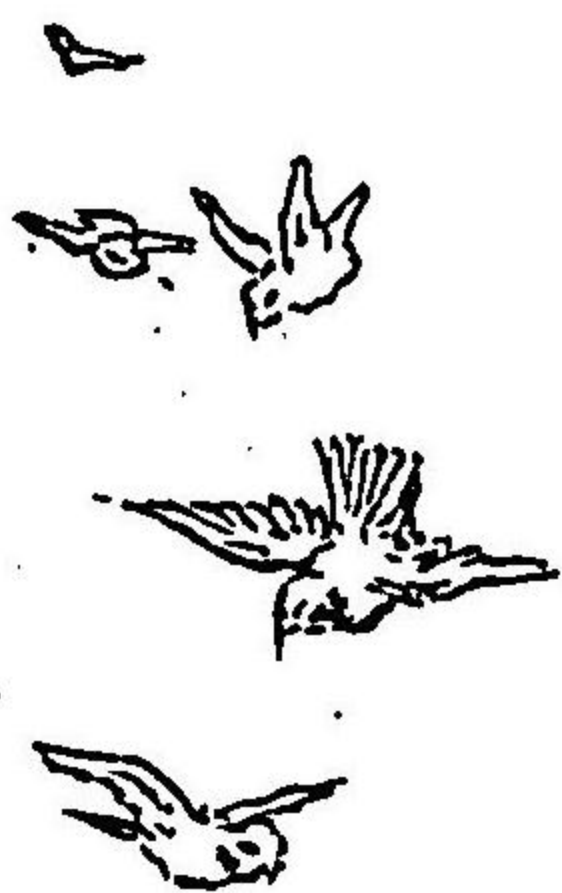
大原驛 兩國橋より五八哩五

海水浴場 大東岬より大原八幡岬に至る鹽田浦また弓状をなし、好個の海水浴場である、八幡岬上矮松蟠屈せる中に八幡宮あり、前面は碧波渺々太平洋に臨み、白帆風を孕みて遠近に來往し、漁舟點々手に取るが如く、北方の海岸弓形盡くる處、巍然たる大東ヶ岬と相對し、風光また愛すべしである。

東海道

五十三次

あな嵐 西竹



○廻遊旅行ノ葉

東京市起點

一、富士川下り 昌平橋停車場(但手小荷物の取扱は飯田町停車場以西に限る)に始まる中央東線に依り途中車窓より右の方橋橋脚に近く猿橋の奇工を眺め笹子の長隧道(長一五三六四呎)を過ぎ甲州の首都甲府に下車し鐵道馬車又は人力車にて歟澤に至り此處より舟を僝ひて信州八ヶ嶽に源する富士川の急流を下り左に富士山右に身延山を望みつゝ岩淵に出で東海道線に依りて新橋に著するもの

從飯田町至甲府(汽車)八〇哩三 約六時間 (一)三・〇五(二)一・八三(三)一・二二

從甲府至歟澤(鐵馬)四里二三丁 約三時間

從歟澤至岩淵(舟)十八里 約八時間

從岩淵至新橋(汽車)九九哩 約五時間 (一)三・六八(二)二・二一(三)一・四七

二、善光寺詣り 同じく中央東線に依り上諏訪驛に下車して諏訪湖に遊び諏訪の温泉に浴し更に進みて松本(下車して淺間温泉に浴してもよし)を過ぎ長野驛に下車して善光寺に詣り歸途は信越線に依りて輕井澤の涼風を納れ高崎、大宮を経て上野に著くもの

從飯田町至上諏訪(汽車)一二二哩七 約九時間 (一)六・〇〇(二)三・六〇(三)二・四〇

從上諏訪至長野(汽車)七〇哩 約四時間半 (一)四・五八(二)二・七五(三)一・八三

從長野至上野(汽車)一三四哩八 約八時間半 (一)四・五八(二)二・七五(三)一・八三

三、木曾路越し 同じく中央東線鹽尻に出で徒歩木曾路に入り木曾川の上流に沿ひて南下し途

中寢覺の床の奇巖を賞し中央西線中津驛に出で(本年夏中には中津より約六哩手前に坂下停車場開かる、筈)瀬戸村附近の産陶地を視察し名古屋にて東海道線に乗り換へ遠州濱名湖の辨天島假停車場に下車し湖水の風光を賞し海水浴を試みて歸京するもの

從飯田町至鹽尻(汽車)一四三哩八 約十時間 (一)四・八〇(二)二・八八(三)一・九二

從鹽尻至中津(徒歩)

從中津至名古屋(汽車)四九哩七 約三時間 (一)二・〇五(二)一・二三(三)八二

從名古屋至辨天島(汽車)五九哩七 約三時間 (一)六・八八(二)四・二三(三)二・七五

從辨天島至新橋(汽車)一七三哩七 約七時間 (一)六・八八(二)四・二三(三)二・七五

一、箱根廻り 新橋を發し東海道線國府津驛に下車し小田原電氣鐵道に依り湯本に至りこゝより七湯を廻りて佐野驛又は三島驛に出で再び東海道線によりて歸京するもの途中御殿場驛より富士登山を試むるもよし

從新橋至國府津(汽車)四七哩 約一時間半 (一)一・九五(二)一・二七(三)〇・七八

從國府津至湯本(電車)八哩 (一)〇・九〇(二)〇・六〇(三)〇・三〇

從湯本至三島(徒歩)

從三島至新橋(汽車)八一哩五 約五時間半 (一)三・一〇(二)一・八六(三)一・二四

二、三浦半島廻り 新橋より藤澤驛に至り電車にて江ノ島に赴き磯傳ひに七里ヶ濱を行きて鎌倉の名所古蹟を訪ひ返子に出で半島を横りて金澤の八景を賞し(又は海岸に浴ひて三崎、浦賀、横須賀、等を廻るもよし)田浦より汽車に乗り大船にて東海道線に乗り換へて歸京するもの

從新橋至藤澤(汽車)三〇哩四 約一時間半 (一)一・二八(二)〇・七七(三)〇・五一

從藤澤至江之島(電車) 約二十分
從江之島至鎌倉(徒歩)

從鎌倉至逗子(汽車)二哩四 約十分

從逗子至金澤(徒歩) (一) 一〇 (二) 六 (三) 四

從金澤至田浦(徒歩)

從田浦至新橋(汽車)三六哩四 約二時間

一、磯内廻り 新橋を發し名古屋にて關西線に乗り換へ更に龜山にて參宮線に乗り換へ山田に行し車窓より笠置山を左の方笠置驛に近く望み奈良に下車して名所古蹟を探り法隆寺、信貴(音)に詣り多武峯に登り再び櫻井驛に出で高田驛に引返し和歌山線に入り途次吉野山、高野山等に登り和歌山驛に下車して和歌ノ浦を賞し大阪市に出で城東線櫻ノ宮驛(又は片町驛)より發する櫻ノ宮線により四條畷神社に立寄り木津にて奈良線に乗り換へ北行して宇治を見京て馬場に至り近江八景を廻りて歸京するもの
從新橋至山田(汽車)三〇六哩四 約十三時間 (一) 八・三〇 (二) 四・九八 (三) 三・三二
從山田至奈良(汽車)八一哩七 約五時間 (一) 四・八五 (二) 二・九一 (三) 一・九四
從奈良至和歌山市(汽車)六四哩八 約四時間半
從和歌山市至難波(汽車) 約三時間

從櫻ノ宮至京都(汽車)五〇哩六 約四時間半 (一) 二・一〇 (二) 一・二六 (三) 〇・八四

從京都至馬場(汽車)一〇哩一 約四十分 (一) 八・七〇 (二) 五・二二 (三) 三・四八

一、松島、日光廻り 上野驛を發し東北線の海岸線により大洗、助川、高萩、勿來等の海水浴地をあさりつゝ常磐の海岸を行き岩沼にて本線下り列車に乗り換へ東北の首都仙臺を見物しこゝより鹽釜に至り鹽釜神社參拜の後乗船し松島の絶勝を左右に眺めつゝ松島村の海岸に至り宮山に登りて再び松島の全景を俯瞰し去て松島驛より汽車に乗り宇都宮にて日光線に乘換へ(途中飯坂、那須、鹽原等の温泉に立寄るもよし)日光の諸廟を觀覽したる後中禪寺湖に遊び日光より汽車にて歸京するもの

從上野至仙臺(汽車)二二五哩六 約九時間 (一) 六・七三 (二) 四・〇四 (三) 二・六九

從仙臺至鹽釜(汽車)九哩三 約二十五分 (一) 六・七三 (二) 四・〇四 (三) 二・六九

從鹽釜至松島(舟) 三里

從松島至松島驛(徒歩)

從松島至日光(汽車)一九一哩四 約十一時間 (一) 五・九八 (二) 三・五九 (三) 二・三九

從日光至上野(汽車)九〇哩九 約四時半 (一) 三・四〇 (二) 二・〇四 (三) 一・三六

一、霞ヶ浦廻り 總武線により銚子に至り銚子の磯廻りをして海水に浴し汽船にて息栖、鹿島、香取の三社詣を終へて霞ヶ浦の八景を賞しながら土浦に着船筑波山に登山して歸京するもの
從兩國橋至銚子(汽車)七二哩七 約四時間 (一) 二・八〇 (二) 一・六八 (三) 一・一二
從銚子至土浦 (汽船)二十三哩

從土浦至上野 (汽車) 四一哩 約二時間半 (一) 一・七〇 (二) 一・〇二 (三) 一・〇六八
 一、北陸廻り 日本線により高崎に出て伊香保温泉に浴し長野に出て、善光寺に詣り更に直江津に出で、汽船によるか又は徒歩にて親不知の奇勝を探り富山より北陸線によりて山代、山中温泉に浴し米原に出で、東海道線に乗り換へ途中舞坂に下車して辨天島に潮浴して歸京するもの

從上野至前橋 (汽車) 六九哩二 約三時間 (一) 二・七〇 (二) 一・六二 (三) 一・〇八

從前橋至伊香保 五里
 從前橋至直江津 (汽車) 一二四哩 約八時間 (一) 四・三〇 (二) 二・五八 (三) 一・七二

從直江津至富山 三十里
 從富山至米原 (汽車) 一五三哩一 約九時間
 從米原至新橋 (汽車) 二八三哩二 約十一時間 (一) 一〇・五八 (二) 六・三五 (三) 四・二三

○各種割引乗車券

一多摩川鮎漁 (二三等三割引通用三日間)

六月二十日より九月三十日迄、昌平橋新宿間、大崎集鴨間、及板橋の各驛より、日野又は立川驛行

一湘南海濱廻遊 (各等通用七日間)

七月一日より九月十日迄

新橋品川より國府津及横須賀驛往復

横濱平沼より同上

一等 三・五〇 二等 二・一〇 三等 一・三〇
 一等 二・五〇 二等 一・五〇 三等 一・〇〇

尙ほ他に七月十一日より九月十日迄、通用三日間の割引往復乗車券の發賣あり、割引は大凡二割なり

一富士登山六月二十九日より九月十日迄、左記二様の二三等割引乗車券を發賣す

イ新橋、品川、横濱、平沼、藤澤、横須賀より御殿場行
 國府津

期間は片道の二倍に三日を加へたる日數

(一) 往復

ロ静岡、濱松、豊橋、名古屋、岐阜、大垣より御殿場若くは鈴川行
 ハ飯田町、新宿、上諏訪、松本、長野より大月行

期間は片道の二倍に三日を加へたる日數

イ新橋より往路御殿場に下車登山し歸路吉田口に下り大月より飯田町に歸著するもの

(二) 廻遊

ロ横濱平沼より往路御殿場に下車登山し歸路吉田口に下り大月より山の手線を経て歸著するもの

七 期 間
 日

ハ飯田町新宿、より往路大月に下車吉田口より登山御殿場口に下り御殿場より新橋に歸著するもの

一辨天島海水浴場行 (二三等二割引期間片道の二倍に三日を加ふ)

六月一日より十月十五日迄、静岡、濱松間及武豊線各驛並に豊橋、蒲郡、岡崎、安城、熱田名古屋、一ノ宮、岐阜、大垣より辨天島行往復

一温泉行

イ六月二十日より九月三十日迄 毎土曜、日曜、大祭日及其前日、青森及弘前より大鰐又は碓

ヶ關行

口同上青森及浦町より淺虫行
右二三等二割引、通用三日間

ハ七月一日より九月十五日迄上野より四那須野又は黒磯驛行、二三等三割引通用十四日間
一海岸線廻遊(二三等三割引、通用十四日間)

七月一日より九月三十日迄、上野、高崎、前橋、桐生、足利、佐野、栃木、小山、宇都宮より平行、水戸、平間は通用期間何回にても乗降することを得

一松島遊覽(二三等二割引、通用十日間)

七月一日より九月十五日迄上野より松島行往復

一原釜海水浴場行(二三等二割引、通用片道の二倍に七日を加ふ)

七月十一日より九月十五日迄、福島、岩沼、仙臺、米澤、山形より中村驛行往復

一稻毛、一宮、大原附近海水浴場行(二三等二割引通用片道の二倍に三日を加ふ)

七月一日より九月三十日迄、毎土曜、日曜、大祭日及其前日、兩國橋、本所より稻毛、一宮、大東、長者町、大原行、千葉、本千葉、四街道、佐倉より一宮、大東、長者町、大原行往復

香取鹿島神社參詣(二三等二割引通用七日間)

七月より九月迄毎土曜、日曜日、上野、兩國より佐原行往復

一甲信廻遊(二三等割引通用十日間)

七月一日より九月十五日迄上野及飯田町驛にて、上叡、淺間(松本)温泉及猿橋、高尾山、善光寺等廻遊の便を圖りて發賣す

賃金 二等 五圓五十錢 三等 三圓六十錢 小兒半額

一日光遊覽(二三等五割引通用當日限)

本券は日光遊覽臨時列車に乘車するにあらざれば無効なり

一回數及定期乘車券 湘南方面の別莊等に屢々往復せらるゝ人は、回數若くは定期乘車券を購求せらるゝ方至便なるべし

同數乘車券

區 間	一 等	二 等	三 等
新橋鎌倉(又は藤澤)間	二三、〇〇	一三、八〇	九、二〇
横濱鎌倉(又は藤澤)間	一一、二五	六、七五	四、五〇
新橋大磯間	三〇、五〇	一八、三〇	一二、二〇
横濱大磯間	一九、五〇	一一、七〇	七、八〇
定期乘車券(一ヶ月間)			
新橋鎌倉間	三八、七五	二三、二五	一五、五〇
横濱鎌倉間	一九、七五	一一、八五	七、九〇
新橋大磯間	五一、二五	三〇、七五	二〇、五〇
横濱大磯間	三一、二五	一八、七五	一二、五〇

○汽車賃金表

自新橋驛

橫須賀線

驛名	一等	二等	三等
鎌倉	一、二八	七、七	五、一
逗子	一、三八	八、三	五、五
橫須賀	一、五五	九、三	六、二
東海道線			
藤澤	一、二八	七、七	五、一
茅ヶ崎	一、四五	八、七	五、八
平塚	一、六〇	九、六	六、四
大磯	一、七〇	一、〇二	六、八
國府津	一、九五	一、一七	七、八
山北	二、三〇	二、三八	九、二
御殿場	二、七〇	二、六二	一、〇八

自飯田町驛

中央東線

驛名	一等	二等	三等
佐野	三、〇〇	一、八〇	一、二〇
三島	三、一〇	一、八六	一、二四
沼津	三、二〇	一、九二	一、二八
鈴川	三、五〇	二、一〇	一、四〇
岩洲	三、六八	二、二一	一、四七
興津	三、九〇	二、三九	一、五六
江尻	三、九八	二、四九	一、五九
靜岡	四、一〇	二、六一	一、六六
濱松	五、三五	三、二一	二、一四
舞坂	五、五〇	三、三〇	二、二〇
立川	八、八	五、三	三、五

自上野驛

驛名	一等	二等	三等
橫川	三、二三	一、九四	一、二九
輕井澤	三、四五	二、〇〇	一、三八
田口	五、二五	三、一五	二、一〇
大宮	七、〇	四、二	二、八
宇都宮	二、五八	一、五五	一、〇三
日光	三、四〇	二、〇四	一、三六
西那須野	三、四五	二、〇七	一、三八
長岡	五、五五	三、三三	二、二二
松島	六、八五	四、一一	二、七四
鹽釜	六、七三	四、〇四	二、六九
平泉	七、七八	四、六七	三、一一
土浦	一、七〇	一、〇二	六、八

日野	九、五	五、七	三、八
猿橋	二、一〇	一、二六	八、四
大月	二、一五	一、二九	八、六
笹子	二、四〇	一、四四	九、六
日下部	二、八三	一、七〇	一、一三
甲府	三、〇五	一、八三	一、三二
日野春	三、五八	二、一五	一、四三
小淵澤	三、八〇	二、二八	一、五二
上諏訪	四、二五	二、五五	一、七〇
下諏訪	四、三〇	二、五八	一、七二
松本	五、〇〇	三、〇〇	二、〇〇
信越線			
磯部	三、〇〇	一、八〇	一、二〇
松井田	三、一三	一、八八	一、二五

94
2
570

謹啓時下炎威日に募り青山幾度か夢に入るの候
 益御清適の段奉賀候さて鐵道國有後日尙淺く諸
 般の改良發展を計るに就ては大方の忠言警告に
 俟つもの尠ならず候に付自然鐵道營業上に關
 し御氣附の廉も有之候は、御腹藏なく御告知被
 成下候様希望に堪へず候

帝國鐵道應運輸部旅客課
 電話番號 新橋六八一番
 同 四六九二番

自兩國橋驛

飯岡	成東	稻毛	驛名	總武線	前橋	中村	勿來	關本	磯原	高萩	助川	水戸
二、五三	一、九〇	八五	一等		二、七〇	六、〇〇	四、〇八	四、〇〇	三、九〇	三、七五	三、四五	二、八三
一、五二	一、一四	五一	二等		一、六二	三、六〇	二、四五	二、四〇	二、三四	二、二五	二、〇七	一、七〇
一、〇二	七六	三四	三等		一、〇八	二、四〇	一、六三	一、六〇	一、五六	一、五〇	一、三八	一、二三

但通行税は

三等	二等	一等	等	級	哩	以上	未滿	未滿	未滿	未滿
四	二五	五〇	二	百	哩	以	未	未	未	未
三	二〇	四〇	二	百	哩	上	滿	滿	滿	滿
二	一〇	二〇	二	百	哩	二	未	未	未	未
一	三	五	二	百	哩	三	滿	滿	滿	滿
			二	百	哩	四	未	未	未	未
			二	百	哩	五	滿	滿	滿	滿
			二	百	哩	六	未	未	未	未
			二	百	哩	七	滿	滿	滿	滿
			二	百	哩	八	未	未	未	未
			二	百	哩	九	滿	滿	滿	滿
			二	百	哩	十	未	未	未	未
			二	百	哩	十一	滿	滿	滿	滿
			二	百	哩	十二	未	未	未	未
			二	百	哩	十三	滿	滿	滿	滿
			二	百	哩	十四	未	未	未	未
			二	百	哩	十五	滿	滿	滿	滿
			二	百	哩	十六	未	未	未	未
			二	百	哩	十七	滿	滿	滿	滿
			二	百	哩	十八	未	未	未	未
			二	百	哩	十九	滿	滿	滿	滿
			二	百	哩	二十	未	未	未	未
			二	百	哩	二十一	滿	滿	滿	滿
			二	百	哩	二十二	未	未	未	未
			二	百	哩	二十三	滿	滿	滿	滿
			二	百	哩	二十四	未	未	未	未
			二	百	哩	二十五	滿	滿	滿	滿
			二	百	哩	二十六	未	未	未	未
			二	百	哩	二十七	滿	滿	滿	滿
			二	百	哩	二十八	未	未	未	未
			二	百	哩	二十九	滿	滿	滿	滿
			二	百	哩	三十	未	未	未	未
			二	百	哩	三十一	滿	滿	滿	滿
			二	百	哩	三十二	未	未	未	未
			二	百	哩	三十三	滿	滿	滿	滿
			二	百	哩	三十四	未	未	未	未
			二	百	哩	三十五	滿	滿	滿	滿
			二	百	哩	三十六	未	未	未	未
			二	百	哩	三十七	滿	滿	滿	滿
			二	百	哩	三十八	未	未	未	未
			二	百	哩	三十九	滿	滿	滿	滿
			二	百	哩	四十	未	未	未	未
			二	百	哩	四十一	滿	滿	滿	滿
			二	百	哩	四十二	未	未	未	未
			二	百	哩	四十三	滿	滿	滿	滿
			二	百	哩	四十四	未	未	未	未
			二	百	哩	四十五	滿	滿	滿	滿
			二	百	哩	四十六	未	未	未	未
			二	百	哩	四十七	滿	滿	滿	滿
			二	百	哩	四十八	未	未	未	未
			二	百	哩	四十九	滿	滿	滿	滿
			二	百	哩	五十	未	未	未	未

94
2
570

謹啓時下炎威日に募り青山幾度か夢に入るの候
 益御清適の段奉賀候さて鐵道國有後日尙淺く諸
 般の改良發展を計るに就ては大方の忠言警告に
 俟つもの尠なからず候に付自然鐵道營業上に關
 し御氣附の庶も有之候は、御腹藏なく御告知被
 成下候様希望に堪へず候

帝國鐵道廳運輸部旅客課

電話番號 新橋六八一番
 同 四六九二番

自兩國橋驛

總武線

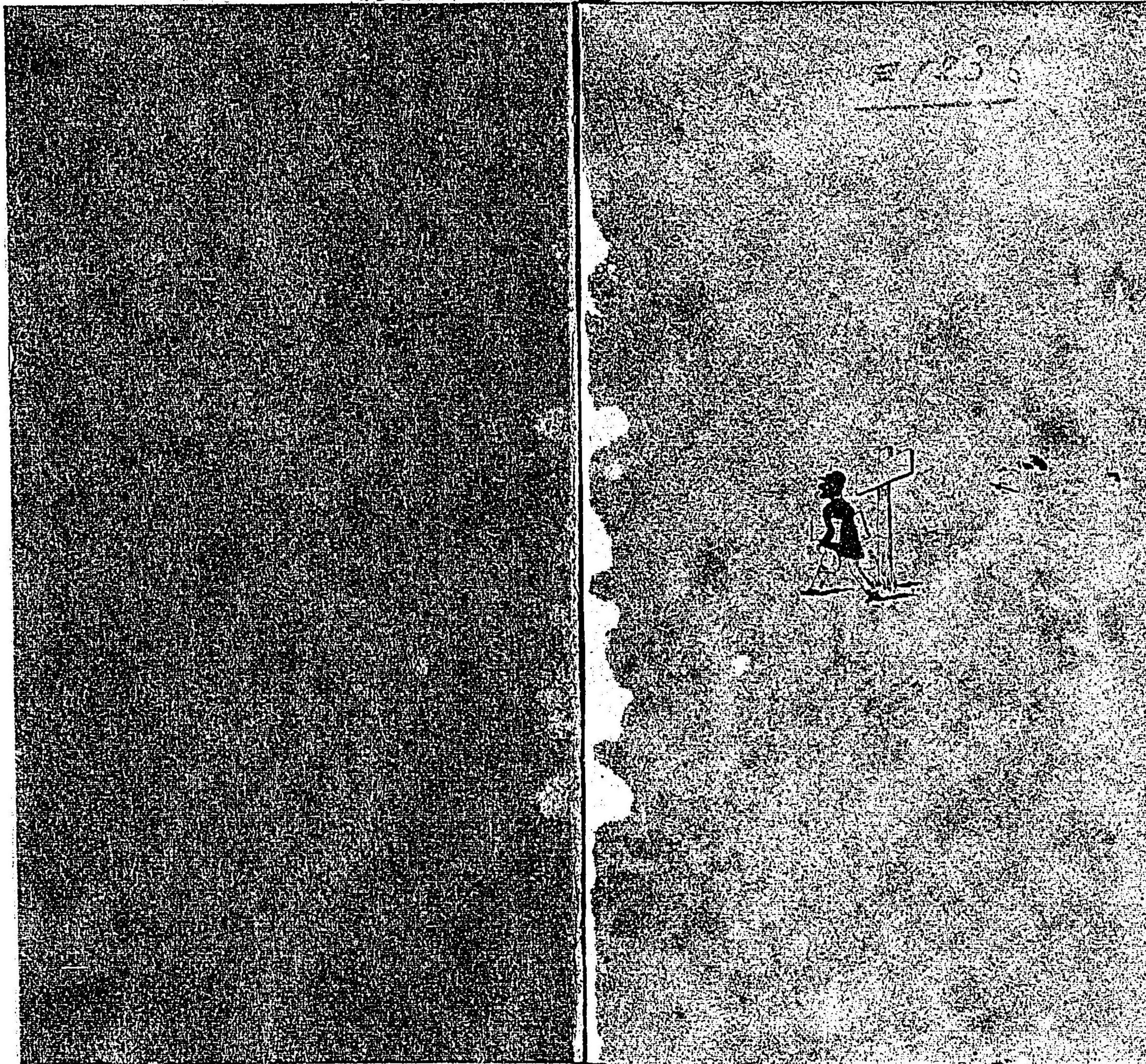
飯	成	稻	驛	前	中	勿	關	磯	高	助	水
岡	東	毛	名	橋	村	來	本	原	萩	川	戸
二、五三	一、九〇	八五	一等	二、七〇	六、〇〇	四、〇八	四、〇〇	三、九〇	三、七五	三、四五	二、八三
一、五二	一、一四	五一	二等	一、六二	三、六〇	二、四五	二、四〇	二、三四	二、二五	二、〇七	一、七〇
一、〇一	七六	三四	三等	一、〇八	二、四〇	一、六三	一、六〇	一、五六	一、五〇	一、三八	一、一三

銚子	二、八〇	一、六八	一、二二
房總線			
一宮	二、〇五	一、二三	八二
大東	二、二〇	一、三三	八八
大原	二、三五	一、四一	九四

本書に掲げたる乗車賃金には總べて通行税
 を含まず

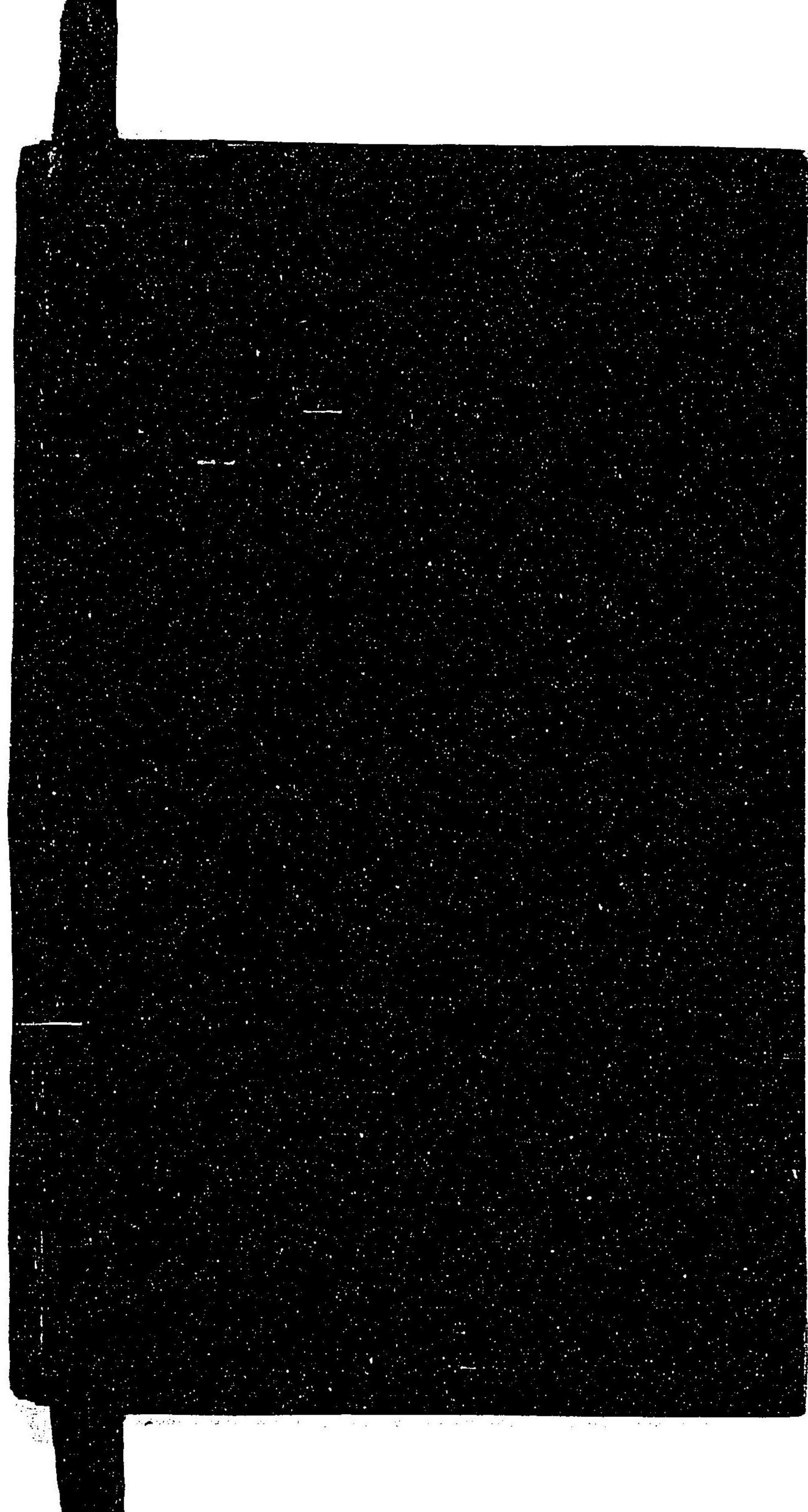
但通行税は

等級	二百哩以上	二百哩未滿	百哩未滿	五十哩未滿
一等	五〇錢	四〇錢	二〇錢	一〇錢
二等	二五錢	二〇錢	一〇錢	五錢
三等	四錢	三錢	二錢	一錢



94

570



94
570

022420-002-2

94-570

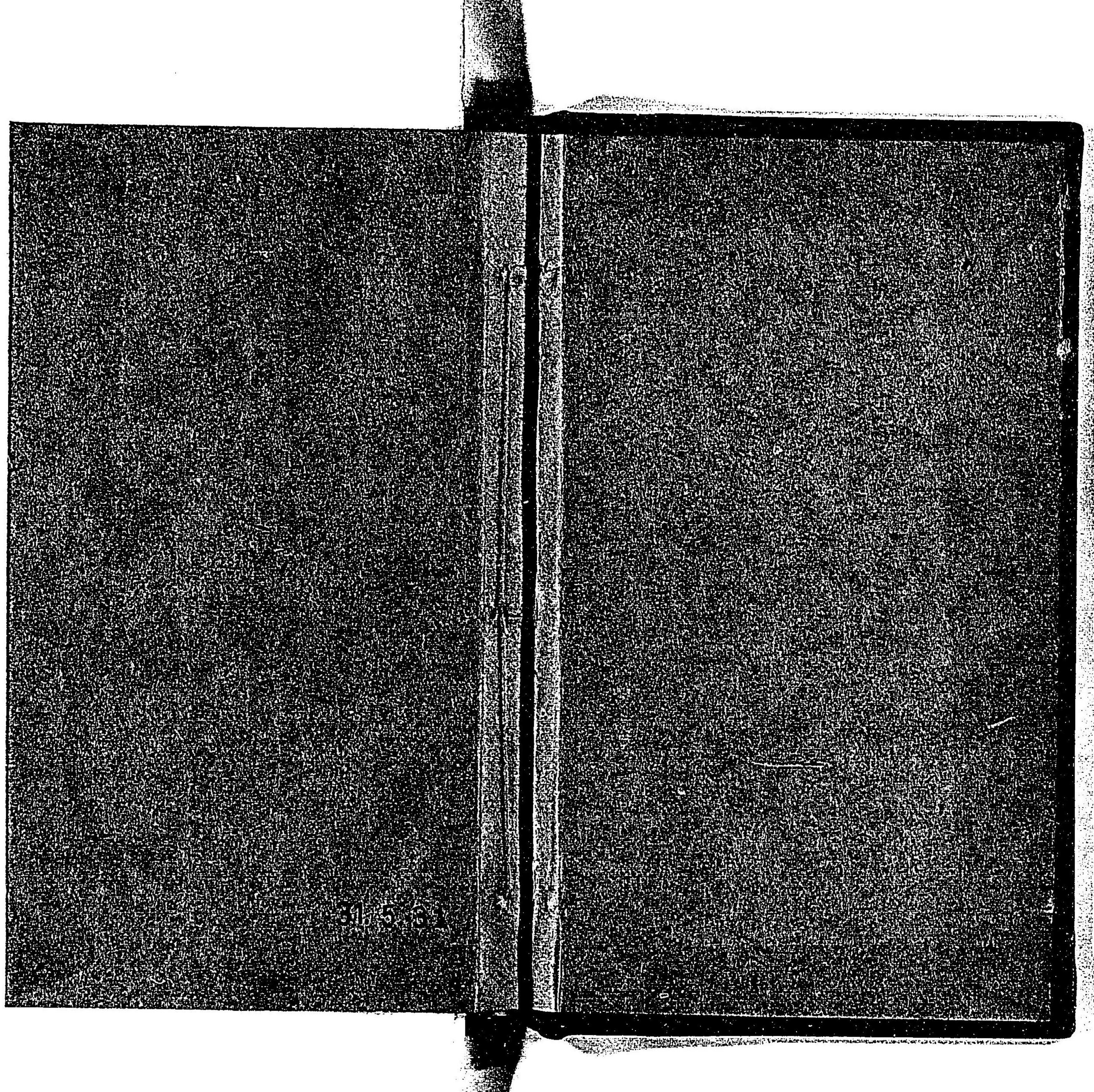
夏季旅行案内

帝国鉄道庁運輸部

M41

ADB-0067





315 3

—

